

科目名	人間の尊厳と自立			単位数	2	時間数	30
対象学生	1年	開設期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要	介護福祉を实践するために必要な人間に対する基本的理解、人間の尊厳・人権尊重及び権利擁護の考え方を養うよう講義する。また、本人主体の観点から自立の考え方、自立生活の理解を通しその生活を支える必要性を理解するよう講義する。						
一般目標	人間の理解を基礎として、尊厳の保持と自立について理解し、介護福祉の倫理的課題への対応能力の基礎を習得する。						
テキスト	「1 人間の理解」(中央法規)						
到達目標(行動目標)							
知識(認知領域) 人権尊重及び権利擁護の考え方や、自立の意味、尊厳の保持や自己決定について説明できる。							
技術(精神運動領域) グループワーク(演習)学習で、多様な場面でのコミュニケーション技法を実施できる。							
態度(情意領域) 主体的にGWに参加し、自分の価値観や行動をふりかえることができる。							
回数	項 目		内 容			授業 学習方法	備考
1	導入		専門性の構造 (演習)専門性の樹			講義 演習	
2	人間の尊厳と人権・福祉理念①		人間の尊厳 (演習)伝道師と老人			講義 演習	
3	人間の尊厳と人権・福祉理念②		優生思想、新型出生前診断			講義 演習	
4	人間の尊厳と人権・福祉理念③		権利侵害が起こる状況、ホームレス問題			講義 演習	
5	人間の尊厳と人権・福祉理念④		権利侵害が起こる状況、ハンセン病			講義 演習	
6	人間の尊厳と人権・福祉理念⑤		権利侵害が起こる状況、ハンセン病～DVD「あん」			講義 DVD	
7	人間の尊厳と人権・福祉理念⑥		権利侵害が起こる状況、ハンセン病～DVD「あん」			講義 DVD	
8	人間の尊厳と人権・福祉理念⑦		権利侵害が起こる状況、高齢者虐待			講義 演習	
9	人間の尊厳と人権・福祉理念⑧		エンパワメントとアドボカシー			講義 演習	
10	人間の尊厳と人権・福祉理念⑨		ノーマライゼーションとソーシャルインクルージョン			講義 DVD	
11	人間の尊厳と人権・福祉理念⑩		施設コンフリクト			講義 演習	
12	自立のあり方①		自立と自立支援			講義 演習	
13	自立のあり方②		尊厳の保持と自立			講義 演習	
14	まとめ		振り返り、国家試験対策			講義	
15	期末試験		筆記試験			試験	

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			70	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト					
課題レポート					
授業態度			○	10	
演習(GW、技術等)		○		20	
担当教員	弘中 浩代		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	人間関係とコミュニケーション			単位数	2	時間数	30
対象学生	1年	開設期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要	自己理解、他者理解をもとに対人関係とコミュニケーションについて理解するよう講義する。また、コミュニケーションの基礎を学ぶことができるよう講義する。						
一般目標	対人援助に必要な人間の関係性を理解し、関係形成に必要なコミュニケーションの基礎的な知識を習得する。						
テキスト	「1 人間の理解」(中央法規)						
到達目標(行動目標)							
知識(認知領域) 自己覚知、自己開示、傾聴、受容、共感について説明できる。							
技術(精神運動領域) グループワーク(演習)学習で、多様な場面でのコミュニケーション技法を実施できる。							
態度(情意領域) 主体的にGWに参加し、自分の価値観や行動をふりかえることができる。							
回数	項 目		内 容			授業 学習方法	備考
1	導入		授業概要、一般目標及び授業の進行に関する説明			講義 演習	
2	人間と人間関係①		自己覚知 (演習)イメージの名刺交換、ジョハリの窓			講義 演習	
3	人間と人間関係②		自己覚知 (演習)ライフストーリーの作成			講義 GW	
4	人間と人間関係③		自己覚知 (演習)心のめがね			講義 演習	
5	人間と人間関係④		自己開示 (演習)心のめがねの発表			講義 演習	
6	人間と人間関係⑤		自分と他者の理解 (演習)価値交流学习			講義 GW	
7	人間と人間関係⑥		集団の中の人間関係、グループダイナミクス			講義 演習	
8	人間と人間関係⑦		人間関係とストレス			講義 演習	
9	対人関係におけるコミュニケーション①		言語的コミュニケーション(演習)伝達トレーニング			講義 演習	
10	対人関係におけるコミュニケーション②		非言語的コミュニケーション(演習)ジェスチャートレーニング			講義 演習	
11	対人援助関係とコミュニケーション①		ラポールの形成～バイステックの7原則、傾聴			講義 演習	
12	対人援助関係とコミュニケーション②		ラポールの形成～受容			講義 演習	
13	対人援助関係とコミュニケーション③		ラポールの形成～共感			講義 演習	
14	まとめ		振り返り、国試対策			講義	
15	期末試験		筆記試験			試験	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			70	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト					
課題レポート					
授業態度			○	10	
演習(GW、技術等)		○		20	
担当教員	弘中 浩代		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	レクリエーション			単位数	2	時間数	30
対象学生	1年	開設期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要	介護サービスにおける、レクリエーション支援の意義について理解し、実践を通し、レクリエーション支援の役割と必要性を考える講義とする。						
一般目標	1. 福祉分野で実際にレクリエーション支援を実施できるようになるための知識・技術を習得する。 2. レクリエーション支援の実際の体験するとともに、チーム支援において重要な、合意形成能力を高める。 3. 介護福祉士としてレクリエーション活動の必要性を理解し、支援者として自己課題を見出す。						
テキスト	参考文献:「レクリエーション介護士2級 公式テキスト<第3版>」(株式会社スマイルプラスカンパニー) 「福祉レクリエーション総論」(中央法規)						
到達目標(行動目標)							
知識(認知領域) 介護サービスにおける、レクリエーション支援の意義について説明できる。							
技術(精神運動領域) レクリエーション支援の役割や、活動の実践を理解し、実践できる。							
態度(情意領域) 主体的に参加することができる。(GW・企画書作成・レクリエーション実施)							
回数	項 目		内 容			授業 学習方法	備考
1	レクリエーションとは		レクリエーションの意義、海外、日本のレクリエーションの歩み			講義	
2	福祉レクリエーションの重要性		福祉レクリエーションとはなにか、福祉レクリエーションの重要性について			講義	
3	ホスピタリティについて		レクリエーション支援に必要なホスピタリティとホスピタリティトレーニング演習、アイスブレイクの効果について			講義 演習	
4	アイスブレイクの実践		様々なアイスブレイクの実演とその効果について			講義 演習	
5	レクリエーション支援者として		支援者としての思考・態度・心構えについて			講義 演習	
6	レクリエーション援助プロセスA-PIEについて		意義・目的とA-PIE構成要素の具体的な内容について			講義	
7	レクリエーション援助プロセスアセスメント準備		レクリエーション実施施設の概要を調べる、情報収集の確認			講義 演習	
8	情報収集		計画立案にあたり施設訪問し情報収集を行う			実習	
9	情報収集・アセスメント		計画立案にあたり施設訪問し情報収集 (アセスメント)			実習 GW	
10	企画書作成		アセスメントをもとに計画書を作成			GW	
11	実施準備		レクリエーション実施に向け必要物品の準備			GW	
12	実施		施設で高齢者を対象に学生主体のレクリエーションを行う			実習	
13	実施		施設で高齢者を対象に学生主体のレクリエーションを行う 施設職員講評			実習	
14	実習の振り返り・評価		各担当教員と計画・実施について振り返る レクリエーション評価についての説明と記録			講義 GW	
15	期末試験		筆記試験			試験	

成績評価方法

		知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験		○			70	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト						
課題レポート		○			20	
授業態度						
演習(GW、技術等)			○		10	
担当教員			実務経験紹介		http://www.yic.ac.jp/nw/	

科目名	国語表現			単位数	2	時間数	30	
対象学生	1年	開設期	前期	教員実務経験対象	有			
授業概要	介護で使用される言葉に焦点を当て、専門用語を意味、使用方法とともに紹介する。 国家試験問題の理解、正しい解答が導き出せるよう、語彙の確認と文章理解の講義・演習を行う。 実際に書く時間を設け、添削指導を行う。							
一般目標	1. コミュニケーションの重要性を理解し、会話と専門用語の違いを知って、言葉を使うことができる。 2. 介護に関する基本的な言葉(専門用語)を理解する。 3. 場面に応じた声掛けについて知り、臨機応変に声掛けができるようになる。 4. 実習日誌の重要性を理解し、項目に合った内容を書くことができるようになる。							
テキスト	レジュメ・プリントで対応							
到達目標(行動目標)								
知識(認知領域) 介護に関する専門用語、よく使用される語彙とその意味を理解し、適切に使用、説明することができる。 記録の意義を理解し、説明できる。 専門用語を覚え、他の同じ意味の言葉など様々な表現を知り、使用することができる。 話を聞いて理解し、話の内容を説明することができる。								
技術(精神運動領域) 場面に応じた声かけができる。 口に出して言える。 話し言葉と書き言葉の相違を理解し、記録を書くことができる。 専門用語を活用し、記録として書くことができる。								
態度(情意領域) 演習に主体的・積極的に参加することができる。 積極的にレジュメ・プリントを読む。								
回数	項 目			内 容			授業 学習方法	備考
1	言葉の重要性・介護の言葉の理解			日本語テスト 介護の日本語・介護福祉士国家試験問題練習			試験 講義	
2	話し言葉・書き言葉、敬語表現			介護の日本語・介護福祉士国家試験問題練習 話し言葉と書き言葉の相違点、敬語の種類と使い方			講義	
3	場面別声かけ			介護の日本語・介護福祉士国家試験問題練習 起床・食事の際の声かけ、俳句			講義 演習	
4	場面別声かけ			介護の日本語・介護福祉士国家試験問題練習 排泄・入浴の際の声かけ、和歌(短歌)			講義 演習	
5	場面別声かけ			介護の日本語・介護福祉士国家試験問題練習 就寝の際の声かけ、総復習、語源			講義 演習	
6	場面別声かけ			介護の日本語・介護福祉士国家試験問題練習 丁寧な声かけ、よくない声かけ、流行語			講義 演習	
7	記録の理解			介護の日本語・介護福祉士国家試験問題練習 記録の意義、留意点、原稿用紙の使い方			講義	
8	記録の書き方理解			介護の日本語・介護福祉士国家試験問題練習 介護記録の書き方、よく使う言葉とその意味の確認、慣用句			講義	
9	記録の書き方理解			介護の日本語・介護福祉士国家試験問題練習 介護記録を読む、書かれてあることの読み取り、文の組み立て			演習	
10	記録の書き方理解			介護の日本語・介護福祉士国家試験問題練習 介護記録の読む、書かれてあることの読み取り、発想			演習	
11	記録の書き方理解			介護の日本語・介護福祉士国家試験問題練習 記録によく使われる表現について、主観と客観			講義	
12	記録の書き方理解			介護の日本語・介護福祉士国家試験問題練習 話したことを書いてみる、四字熟語			講義 演習	
13	記録の書き方理解			介護の日本語・介護福祉士国家試験問題練習 会話を記録にする、所感のまとめ方			講義 演習	
14	記録の書き方理解			介護の日本語・介護福祉士国家試験問題練習 お礼状の書き方			講義 演習	
15	期末試験			筆記試験			試験	

成績評価方法						
		知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験		○	○		80	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト		○			5	
課題レポート		○			10	
授業態度				○	5	
演習(GW、技術等)						
担当教員	久賀 菜穂子		実務経験紹介	無		

科目名	介護の基本Ⅰ－1			単位数	4	時間数	60
対象学生	1年	開設期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要	介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学習ができるよう講義する。						
一般目標	1. 介護を必要とする人の生活の個別性に対応するために、生活の多様性や社会との関わりを理解する。 2. 介護を必要とする人を生活する人として受けとめ、一人ひとりの利用者の意向や生き方、生活習慣など、その人らしさ(個性)を大切にすることなどを学び、尊厳を守る介護、自立に向けた介護について理解する。						
テキスト	「3 介護の基本Ⅰ」「4 介護の基本Ⅱ」(中央法規)						
到達目標(行動目標)							
知識(認知領域) 介護の意義と役割及び専門性について介護の歴史や関連法規を通して理解し、説明できる。介護福祉士の倫理について「社会福祉士及び介護福祉士法」の規定をもとに理解し、実践の場で倫理がどのように活かせるのかについて説明できる。							
技術(精神運動領域) 利用者の理解及び自立に向けた介護実践に関わる概念や考え方などを理解し実践できる。							
態度(情意領域) 主体的に参加することができる(GWでの積極的な討議・意見交換、課題提出等)。							
回数	項 目		内 容			授業 学習方法	備考
1	介護福祉を必要とする人の理解		生活とは何か			講義 演習	
2	介護福祉を必要とする人の理解		生活にとって大切な要素			講義	
3	介護福祉を必要とする人の理解		生活の特性			講義	
4	さまざまな生活の違いがあることの理解		周囲の人にインタビューし、その結果について、共通点や相違点など、気づいたことをグループでまとめる			講義 演習	
5	さまざまな生活の違いがあることの理解						
6	介護福祉を必要とする人の理解		福祉専門職として(自己覚知)			講義	
7	介護福祉を必要とする人の理解		対人援助技術 「共感的理解と基本的態度の習得」 レポート提出			講義 DVD	
8	介護福祉士の役割と機能		社会福祉士及び介護福祉士法			講義	
9	介護福祉士の役割と機能		介護福祉士に求められる役割とその養成			講義	
10	介護福祉士の役割と機能		介護福祉士会の倫理綱領と行動規範			講義	
11	介護福祉士を必要とする人たちの暮らし生活のしづらさの理解とその支援		重度の身体障害のある人が一人旅に出ようとした場合、どのような準備や手配、確認があるかを当事者の立場になって考えてみることで、社会参加の難しさと大切さを理解する			講義 演習 発表	
12	介護福祉士を必要とする人たちの暮らし生活のしづらさの理解とその支援						
13	介護福祉士を必要とする人たちの暮らし生活のしづらさの理解とその支援						
14	高齢者が生きてきた時代や文化を知る		関連文献を検索する			講義 GW	
15	高齢者が生きてきた時代や文化を知る		高齢者の人生という歴史を理解する			GW	

回数	項 目	内 容	授業 学習方法	備考
16	高齢者が生きてきた時代や文化を知る	高齢者の人生という歴史を理解する	GW	
17	高齢者が生きてきた時代や文化を知る	高齢者の人生という歴史を理解する	GW	
18	高齢者が生きてきた時代や文化を知る	高齢者の人生という歴史を理解する	GW	
19	高齢者が生きてきた時代や文化を知る	高齢者の人生という歴史を理解する	GW	
20	高齢者が生きてきた時代や文化を知る	高齢者の人生という歴史を理解する(発表)	GW	
21	高齢者が生きてきた時代や文化を知る	高齢者の人生という歴史を理解する(発表)	GW	
22	高齢者が生きてきた時代や文化を知る	高齢者の人生という歴史を理解する(発表)	GW	
23	高齢者が生きてきた時代や文化を知る	高齢者の人生という歴史を理解する(まとめ)	GW 講義	
24	介護福祉士の倫理	利用者の人権と介護(身体拘束等)	講義 演習	
25	介護福祉士の倫理	利用者の人権と介護(身体拘束等)	講義 演習	
26	介護福祉士の倫理	利用者の人権と介護(身体拘束等)	講義 演習	
27	介護福祉士の倫理	クローズアップ現代 「私を叱らないで 認知症ケアが変わる」	講義 DVD	
28	介護福祉士の倫理	ユマニチュード 「認知症ケア優しさを伝える技術」	講義 DVD	
29	総まとめ	試験について説明 全体の振り返り	講義	
30	期末試験	筆記試験	講義	

成績評価方法

		知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験		○			80	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト						
課題レポート		○	○		5	
授業態度				○	5	
演習(GW、技術)				○	10	
担当教員	福本 智子		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/	

科目名	生活支援技術Ⅰ－1			単位数	2	時間数	30
対象学生	1年	開設期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要	介護利用者がその人らしい生活を継続し、自立を支援できる方法を理解し提供できる力を養う。						
一般目標	1. 生活支援とは何か、基本的な考え方が理解できる。 2. 居住環境整備、家事支援における介護技術が理解できる。 3. その人らしい生活支援の方法が理解できる。						
テキスト	「6 生活支援技術Ⅰ」 中央法規						
到達目標(行動目標)							
知識(認知領域) 生活支援のポイントや自立した家事支援について説明できる。 安全な居住空間について説明できる。 適切な福祉用具を選べる。							
技術(精神運動領域) 介護計画を理解し計画に沿った家事支援ができる。							
態度(情意領域) 主体的に講義・GWに参加できる。							
回数	項 目			内 容		授業 学習方法	備考
1	生活支援の理解			生活を理解する		講義	
2	生活支援の理解			生活支援の基本的な考え方		講義 GW	
3	生活支援の理解			介護過程のポイント ICFの視点		講義	
4	生活支援の理解			他職種との連携 チームアプローチ		講義 GW	
5	居住環境の整備			居住環境の意義と目的		講義	
6	居住環境の整備			自立に向けた居住環境		講義 GW	
7	居住環境の整備			居住環境整備の基本 災害に対する備え		GW	
8	居住環境の整備			対象者の状態、状況に応じた留意点		講義	
9	福祉用具の意義			福祉用具の重要性、種類 適切な福祉用具を選ぶための視点		講義	
10	自立に向けた家事の介護			自立した家事とは		講義 GW	
11	自立に向けた家事の介護			家事支援における介護技術		講義 GW	
12	自立に向けた家事の介護			家事の介護における他職種との連携		講義 GW	
13	緊急時の対応			緊急時の対応		講義	
14	災害時における生活支援・まとめ			被災地で活動する際の心構え 災害時における生活支援・まとめ		講義	
15	期末試験			筆記試験		試験	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○		100	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト					
課題レポート					
授業態度					
演習(GW、技術等)					
担当教員	伊東 典子		実務経験紹介	無	

科目名	生活支援技術Ⅱ－1			単位数	4	時間数	60
対象学生	1年	開設期	前期	教員実務経験対象		有	
授業概要	尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。						
一般目標	1. 介護福祉士に求められる役割と機能を理解し、専門職としての態度を養う。 2. 介護を実践する対象、場によらず、様々な場面に必要とされる介護の基礎的な知識・技術を習得する。						
テキスト	「7 生活支援技術Ⅱ」「6 生活支援技術Ⅰ」(中央法規)						
到達目標(行動目標)							
知識(認知領域) 利用者の安全に配慮した支援方法を説明できる。							
技術(精神運動領域) 利用者の自立を踏まえ、生活行為ごとの基本的な介護の原理を活用して技術展開できる。							
態度(情意領域) 授業に積極的に参加することができる(周囲と協力する、周囲に配慮する、周囲と討議する)。							
回数	項 目			内 容		授業 学習方法	備考
1	生活支援技術とは			生活支援技術とは(オリエンテーション等) シラバスについて 介護実習室の使用方法について		講義	
2	生活支援技術とは			介護の原則・介護福祉士の専門性		講義	
3	生活支援技術とは			感染予防・感染対策の基礎知識 (手洗い・マスク・エプロン)		演習	
4	自立に向け移動・移乗の介護			おもな姿勢とからだの動きを知る ボディメカニクス (座位・立ち上がり・立位)		演習	
5	自立に向け移動・移乗の介護			歩行のしくみと杖歩行介助 (杖の使用法 ・杖歩行の介助方法(平面、階段の昇降))		演習	
6	自立に向け移動・移乗の介護			車いすの介助(自走体験・段差越え・スロープ・砂利道等)		演習	
7	自立に向け移動・移乗の介護			福祉車両について(安全性と使用方法)		講義 演習	
8	自立に向けた身支度の介護			整容の介助 (バイタルサインとバイタルチェック)		演習	
9	自立に向けた身支度の介護			整容の介助 (整髪の介助・髭の手入れの介助)		演習	
10	自立に向けた身支度の介護			座位姿勢での着脱 (前開き:上衣・下衣 かぶり上衣 靴下)		演習	
11	自立に向けた身支度の介護			座位姿勢での着脱:技術練習 (前開き:上衣・下衣 かぶり上衣 靴下)		演習	
12	自立抜向けた食事の介護			食事を行うための環境づくり 座位姿勢で行う食事介助		演習	
13	自立抜向けた食事の介護			利用者の状態合せた食事内容と介助(座位)		演習	
14	技術練習			事例を用いて技術展開		演習	
15	自立に向けた入浴・清潔保持の介護			入浴の準備と洗髪・洗身の介助 個浴・シャワー浴介助方法		演習	

回数	項 目	内 容	授業 学習方法	備考
16	自立に向けた入浴・清潔保持の介護	ストレッチャーへの移動とストレッチャー上の洗身介助 特殊浴槽(機械浴)の入浴介助	演習	
17	自立に向けた入浴・清潔保持の介護	部分浴の介助・手浴・足浴(座位姿勢・臥位姿勢)	演習	
18	自立に向けた入浴・清潔保持の介護	清拭の介助(座位姿勢・臥位姿勢)	演習	
19	休息・睡眠の介護	ベッドメイキングのポイント(準備と手順・方法)	演習	
20	休息・睡眠の介護	ベッドメイキングのポイント(準備と手順・方法) 2人で行うベッドメイク	演習	
21	休息・睡眠の介護	ベッドメイキングのポイント(準備と手順・方法) 2人で行うベッドメイク技術練習	演習	
22	自立に向けた移動・移乗介助	起居動作 (臥位から端座位・立ち上がり・歩行)	演習	
23	自立に向けた移動・移乗介助	移乗の介護 (ベッド端座位⇄車いすへの移乗)	演習	
24	自立に向けた移動・移乗介助	移乗の介護 (ベッド端座位⇄車いすへの移乗技術練習)	演習	
25	自立に向けた移動・移乗介助	移動の介助 (ベッド上での水平移動・上方移動)	演習	
26	自立に向けた移動・移乗介助	移動の介助 (ベッド上での水平移動・上方移動技術練習)	演習	
27	技術練習	事例を用いて技術展開	演習	
28	技術チェック	ベッドメイキング技術試験	演習	
29	技術チェック	ベッドメイキング技術試験	演習	
30	期末試験	筆記試験	試験	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			70	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト					
課題レポート	○			5	
授業態度			○	5	
演習(GW、技術等)		○		20	
担当教員	山本 芳徳 松澤 可奈子		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	介護総合演習Ⅰ			単位数	2	時間数	30
対象学生	1年	開設期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要	介護実践に必要な知識や技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う。						
一般目標	1.実習に向かうために必要な知識や技術を身につける。 2.介護の実践する場によらず様々な場面に必要とされる介護の基礎的な知識・技術を身につける。 3.利用者の様々な暮らしを理解する。 4.実習の振り返りを通じて利用者理解や専門職としての在り方を深める。						
テキスト	「10 介護総合演習・介護実習」(中央法規)「よくわかる介護記録の書き方」(メジカルフレンド社) 実習要項						
到達目標(行動目標)							
知識(認知領域) 利用者の様々な暮らしの理解と実習の振り返りを通じ、専門職としてのあり方について説明できる。							
技術(精神運動領域) 実習に向かうために必要な知識や技術を習得し、実施の振り返りができる。							
態度(情意領域) 授業に積極的に参加することができる(周囲と協力する、周囲に配慮する、周囲と討議する)。							
回数	項 目			内 容		授業 学習方法	備考
1	介護総合演習とは			授業内容の説明、介護実習の目的・内容の理解 介護福祉士の仕事の理解		講義 DVD	
2	介護実習Ⅰ－1について			実習要項・実習の心得 (介護実習の意義と目的・個人情報の取り扱い・健康管理等)		講義	
3	施設理解			通所介護の特徴、実習での学び 通所介護、通所リハビリテーション		講義	
4	実習準備			実習誓約書・個人票の作成、記録物の配布、実習のねらい、 実習記録の意義と目的、実習記録の記入方法		講義 演習	
5	グループミーティング(通所)			各担当教員より事前訪問、実習についての説明		講義	
6	実習の振り返り(通所・後指導)			自己評価・実施技術の記入 レポート(実習のまとめ・自己の課題分析等)		講義	
7	施設理解			実習先の特徴、実習先での学び グループホーム		講義	
8	実習準備			実習誓約書・個人票の作成、記録物の配布、実習のねらい、 実習記録の振り返り		講話	
9	グループミーティング(グループホーム)			各担当教員より事前訪問、実習についての説明		講義	
10	実習の振り返り(グループホーム・後指導)			自己評価・実施技術の記入 レポート(実習のまとめ・自己の課題分析等)		講義 GW	
11	施設理解			実習先の特徴、実習先での学び 訪問介護		講義	
12	実習準備			実習誓約書・個人票作成、記録物の配布、実習のねらい 実習記録の振り返り		講義	
13	グループミーティング(訪問介護)			各担当教員より事前訪問、実習についての説明		講話	
14	実習の振り返り(後指導)			自己評価・実施技術の記入・レポート(実習のまとめ・自己の 課題分析等)・期末試験について		講義	
15	期末試験			筆記試験		試験	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			80	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト					
課題レポート			○	10	
授業態度			○	10	
演習(GW、技術等)					
担当教員	福本 智子		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	発達と老化の理解 I			単位数	2	時間数	30
対象学生	1年	開設期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要	人間の成長と発達の過程における、身体的・心理的・社会的変化及び老化が生活に及ぼす影響を理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的知識を習得する。						
一般目標	1. 人間の成長と発達の基本的な考え方を踏まえ、ライフサイクルの各期における身体的・心理的・社会的特徴と発達課題について理解する。 2. 老化に伴う身体的・心理的・社会的な変化について理解する。						
テキスト	「12 発達と老化の理解」(中央法規)						
到達目標(行動目標)							
知識(認知領域) 人間の発達段階と発達課題について説明できる。 老化に伴う身体的・心理的・社会的な変化について説明できる。							
態度(情意領域) 主体的に参加することができる。							
回数	項 目			内 容		授業 学習方法	備考
1	第1章 人間の成長と発達の基礎的知識			成長・発達の考え方、 成長・発達の原則・法則		講義 演習	
2	第1章 人間の成長と発達の基礎的知識			成長・発達に影響する要因		講義 演習	
3	第2章 人間の発達段階と発達課題			発達理論 発達段階と発達課題 身体的機能の成長と発達 心理的機能と発達 社会的機能の発達		講義 演習	
4	第2章 人間の発達段階と発達課題					講義 演習	
5	第2章 人間の発達段階と発達課題					講義 演習	
6	第2章 人間の発達段階と発達課題					講義 演習	
7	第2章 人間の発達段階と発達課題			発達に伴う特徴的な疾病や障害		講義 DVD	
8	第3章 老年期の特徴と発達課題			老年期の定義、老化とは		講義 演習	
9	第3章 老年期の特徴と発達課題			老年期の発達課題		講義 演習	
10	第3章 老年期の特徴と発達課題			老年期をめぐる今日的課題		講義 DVD	
11	第4章 老化にともなうところとからだの変化と生活			老化にともなう身体的な変化と生活への影響 老化にともなう心理的な変化と生活への影響 老化にともなう社会的な変化と生活への影響		講義 演習	
12	第4章 老化にともなうところとからだの変化と生活					講義 演習	
13	第4章 老化にともなうところとからだの変化と生活					講義 演習	
14	第4章 老化にともなうところとからだの変化と生活					講義 DVD	
15	期末試験			筆記試験		試験	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			80	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト					
課題レポート	○			10	
授業態度					
演習(GW、技術等)			○	10	
担当教員	伊藤 悦子		実務経験紹介	無	

科目名	認知症の理解 I				単位数	2	時間数	30
対象学生	1年	開設期	前期	教員実務経験対象		有		
授業概要	認知症の基礎を説明し、認知症の人に対して関心が高まるように講義を進める。認知症の人と関わるとき、専門職として能力が発揮できるよう知識の定着に努める。							
一般目標	1. 認知症の基礎的理解、認知症の症状・診断・治療・予防について理解する。 2. 認知症を取り巻く状況、認知症ケアの理念と視点を理解する							
テキスト	「13 認知症の理解」(中央法規)							
到達目標(行動目標)								
知識(認知領域) 認知症の疾患、症状、治療、予防について説明する。								
技術(精神運動領域) 認知症の人のケアを模倣する。								
態度(情意領域) 認知症の人の困難さを感じ、認知症の人へ配慮する。								
回数	項 目			内 容			授業 学習方法	備考
1	認知症とは何か			認知症の定義と診断基準、生活障害、症状の全体像、特徴			講義 演習	
2	脳の仕組み			脳の構造・機能、病理、うつ、老化と認知症の関係			講義 演習	
3	認知症の人の心理			不安・喪失感、不安・うつと病識低下、不安・うつの病態			講義 演習	
4	中核症状の理解			中核症状、記憶障害、見当識障害、遂行機能障害、空間認知障害、社会脳、失語・失行・失認、病識低下、神経症状			講義 演習	
5	生活障害の理解			生活障害、IADL障害、ADL障害、家庭内での家族との関係、社会参加			講義 演習	
6	BPSDの理解			BPSDの定義、BPSDの要因、BPSDの誘因、主要なBPSD			講義 演習	
7	認知症の診断と重症度			診断、認知症の重症度判定			講義 演習	
8	認知症の原因疾患と症状・生活障害、 認知症の治療薬 認知症の人とのコミュニケーション			アルツハイマー型認知症、血管性認知症、認知症の原因疾患の鑑別、神経伝達物質の基礎的理解、アルツハイマー型認知症治療薬、BPSD治療薬、コミュニケーションの基本的な理解、認知症の人とのコミュニケーション			講義 演習	
9	認知症の原因疾患と症状・生活障害、 認知症の治療薬 認知症の人とのコミュニケーション			レビー小体型認知症、前頭側頭型認知症、認知症の原因疾患の鑑別、神経伝達物質の基礎的理解、BPSD治療薬、コミュニケーションの基本的な理解、認知症の人とのコミュニケーション			講義 演習	
10	認知症の原因疾患と症状・生活障害、 認知症の治療薬 認知症の人とのコミュニケーション			治療可能な認知症、若年性認知症、認知症の原因疾患の鑑別、神経伝達物質の基礎的理解、BPSD治療薬、コミュニケーションの基本的な理解、認知症の人とのコミュニケーション			講義 演習	
11	認知症の予防			予防の考え方、認知症のリスクを下げる要因			講義 演習	
12	認知症を取り巻く状況			認知症の人の現在とこれから、ケアなきケアの時代からの脱却、これからの認知症を取り巻く状況			講義 演習	
13	認知症のケアの理念と視点、認知症当事者の 視点から見えるもの			理念とは、倫理について、認知症ケアの現状、認知症ケアの視点、認知症ケアにおける関わり 認知症の人の思い、認知症による体験が生活に及ぼす影響、 認知症の人の思いを尊重したサポート方法			講義 演習	
14	まとめ			振り返り、国家試験対策を含めての要点整理			講義 演習	
15	期末試験			筆記試験			試験	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			60	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト	○			20	
レポート					
授業態度	○	○	○	10	
演習(GW、技術等)	○	○	○	10	
担当教員	下野 典子		実務経験紹介	無	

科目名	こころとからだのしくみ I			単位数	2	時間数	30
対象学生	1年	開設期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要	生活支援のために必要な人間の身体について、その解剖や生理的機能、身体の動きのメカニズムを理解し、合わせて介護福祉士が生活支援の立場で知るべき医療関連知識などを講義する。						
一般目標	1. 脳や心臓など人間の身体の解剖や生理的機能を理解する。 2. 骨・関節・骨格筋による身体の動きのメカニズムを理解する。						
テキスト	「11 こころとからだのしくみ」(中央法規)「ぜんぶわかる 人体解剖図」(成美堂)「介護福祉用語辞典」(中央法規)						
到達目標(行動目標)							
知識(認知領域) 脳や心臓など人間の身体の解剖や生理的機能を説明できる。 骨・関節・骨格筋による身体の動きのメカニズムを説明できる。							
態度(情意領域) 主体的に参加することができる。							
回数	項 目			内 容		授業 学習方法	備考
1	細胞・遺伝、身体各部の名称、脳・神経			人体の細胞の構造および遺伝、脳・神経の構造と機能		講義	
2	感覚器 ①視覚器 ②平衡聴覚器			眼の構造と機能、耳の構造と機能		講義	
3	感覚器 ③嗅覚器 ④味覚器 ⑤皮膚 小テスト			鼻の構造と機能、味を感じる味蕾、皮膚の構造と機能		試験 講義	
4	骨・筋肉			人体の骨格と、骨の機能、筋肉の機能		講義	
5	骨・関節の動き、筋肉の動き、 神経系のはたらき			関節の運動と主動作筋、平衡能・敏捷性		講義	
6	細胞・遺伝から神経系のはたらきまでの 小テスト			要点の整理		試験 講義	
7	呼吸器			呼吸器の構造と機能		講義	
8	循環器			心臓の構造と機能、血管系、血液・体液・リンパ		講義	
9	消化器 ①消化管			消化管の構造と機能		講義	
10	消化器 ②肝臓・胆嚢・膵臓			消化腺(唾液腺・肝臓・胆嚢・膵臓)の構造と機能		講義	
11	泌尿器、生殖器			腎臓の構造と機能、生殖器の構造と機能		講義	
12	内分泌			内分泌系の構造と機能		講義	
13	心身の調和、生命の維持と恒常性のしくみ			ホメオスタシス、自律神経系、バイタルサイン		講義	
14	介護福祉職に必要な薬の知識			高齢者に薬の副作用が多い理由、薬の形態と使用上の注意 点		講義	
15	要点のまとめ、期末試験			国家試験対策を含めての要点整理、筆記試験		講義 試験	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			80	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト	○			15	
課題レポート					
授業態度	○			5	
演習(GW、技術等)					
担当教員	水本 博子		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	こころとからだのしくみⅡ			単位数	2	時間数	30
対象学生	1年	開設期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要	介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解する講義とする。						
一般目標	生活支援を行う際に必要となる基礎的な知識として、生活支援の場面に応じたこころとからだのしくみ、及び機能低下や障害が生活に及ぼす影響について理解する。						
テキスト	「11 こころとからだのしくみ」「6 生活支援技術Ⅰ」「7 生活支援技術Ⅱ」(中央法規)						
到達目標(行動目標)							
知識(認知領域) 基本的人体の構造や機能について説明できる。							
態度(情意領域) 授業に積極的に参加することができる。							
回数	項 目		内 容			授業 学習方法	備考
1	移動のしくみ		なぜ移動をするのか、姿勢の種類、麻痺の種類、良肢位、ポジショニングについて			講義 演習	
2	移動に関連したこころのしくみ・からだのしくみ		移動に繋がる支援・臥位から立位になるまで・歩行、移動するためのしくみ 車いすを動かすためのしくみ・筋力・骨強化・予防と改善			講義 演習	
3	身じたくのしくみ 身じたくに関連したからだのしくみ		なぜ身じたくを整えるのか 顔面・眼・耳・鼻の構造と機能			講義	
4	身じたくに関連したからだ・こころのしくみ 心身機能低下が身じたくに及ぼす影響		毛髪 of 構造と機能・清潔について 精神機能・身体機能の低下が身じたくに及ぼす影響			講義	
5	変化と気づきの対応		変化に対する観察ポイント			講義	
6	食事に関連したこころとからだのしくみ 食事のしくみ		なぜ食事をするのか・食事に関連したこころのしくみ 食事に関連したからだのしくみ(口腔から食道まで・摂食と嚥下運動・治療食)			講義	
7	食事に関連したこころとからだのしくみ 変化の気づきと対応		身体機能の変化・緊急性をともなう異常内容・連携のポイント			講義 DVD視聴	
8	入浴・清潔保持に関連したこころのしくみ・からだのしくみ		入浴・清潔保持のしくみ なぜ入浴・清潔保持を行なうのか・入浴の作用と効果			講義 DVD視聴	
9	入浴・清潔保持に関連したこころのしくみ・からだのしくみ		皮膚のしくみと清潔、陰部のしくみと清潔			講義	
10	心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響		皮膚機能の変化・感覚機能、運動機能の低下と影響			講義	
11	休息・睡眠のしくみ 心身の機能低下が睡眠に及ぼす影響		なぜ睡眠をとるのか睡眠のしくみ・睡眠の質を高める 休息・睡眠に影響を及ぼす心身機能の低下 睡眠障害・睡眠不足が及ぼす影響			講義	
12	変化の気づくためのポイント		睡眠での観察ポイント、医療職との連携ポイント、緊急対応			講義	
13	要点のまとめ		国家試験対策も含めての要点整理			講義	
14	まとめ		国家試験対策			講義	
15	期末試験		筆記試験			試験	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			80	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト	○			5	
課題レポート	○			5	
授業態度			○	10	
演習(GW、技術等)					
担当教員	山本 芳徳		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	手話			単位数	1	時間数	20
対象学生	1年	開設期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要	聴覚障害について理解し、コミュニケーション手段である手話指文字を学び、ろう者と簡単な日常会話ができるように講義する。						
一般目標	1. 聴覚障害およびコミュニケーション方法を知る。 2. 聴覚障害者の大切なコミュニケーション手段である手話の単語や指文字等の実技を繰り返し練習することにより習得する。 3. 聴覚障害者との交流によって、生きた手話を学ぶ。						
テキスト	最新版　すぐ使える手話　（主婦と生活社）						
到達目標(行動目標)							
知識(認知領域) 聴覚障害について理解し聞こえの程度、聞こえ方によりコミュニケーション方法が違うことを説明できる。							
技術(精神運動領域) コミュニケーション手段である指文字手話を学び、学んだ手話を使って簡単な会話をろう者としてすることができる。							
態度(情意領域) 学んだ手話指文字を主体的に使う、またろう者と積極的にコミュニケーションを図ろうとする。							
回数	項　目			内　容		授業 学習方法	備考
1	オリエンテーション・指文字			聴覚障害及び聴覚障害者のコミュニケーション方法 指文字		講義	
2	あいさつ・名前に関する手話			挨拶に関する手話 名前に関する手話及び指文字を使って自分の名前を表現する		講義	
3	数字・生年月日に関する手話			数字に関する手話を使って自分の生年月日を手話で表現する		講義	
4	家族・人称に関する手話			人称・家族に関する手話を使って自分の家族を紹介する		講義	
5	地名・場所に関する手話			地名・場所に関する手話を使って学校や自分の住所を表現する		講義	
6	仕事に関する手話			仕事に関する手話を使って自分や家族の仕事を表現する		講義	
7	趣味に関する手話			趣味、得意なことに関する手話を使って自分の趣味や特技を表現する		講義	
8	自己紹介のまとめ			疑問詞「何」「何人」「どこ」「いくつ」を使って自己紹介の会話をする		講義	
9	簡単な会話			今まで習った手話を使って簡単な会話をする		講義	
10	聴覚障害者との交流会			地元の聴覚障害者と今まで習った手話を使って交流する		GW	
11	期末試験			筆記・実技試験		試験	
12							
13							
14							
15							

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○		90	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト					
課題レポート					
授業態度			○	10	
演習(GW、技術等)					
担当教員	山内 陽子		実務経験紹介	無	

科目名	ビジネスマナー			単位数		時間数	15
対象学生	1年	開設期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要	職業人としての基本マナーを身に付けコミュニケーション力を養う。						
一般目標	1. 円滑なコミュニケーションを進めるために第一印象の重要性について学ぶ。 2. 正しい敬語の使い方と介護の現場にふさわしい話し方を理解する。 3. 社会人として必要なビジネスマナーを理解する。						
テキスト	無						
到達目標(行動目標)							
知識(認知領域) 必要性を理解でき、生活一般に活用できる。							
技術(精神運動領域) 学んだことを実践することが出来る。							
態度(情意領域) 主体的に参加することができる(グループワークでの積極的な討議や意見交換・資料等の事前準備、ファイルでの整理整頓等)							
回数	項 目			内 容		授業 学習方法	備考
1	コミュニケーション術(第一印象の重要性)			身だしなみを整える、感じの良い笑顔、挨拶の仕方、視線・人の話をしっかり聞く		講義	
2	社会人としての自覚と心構え			報・連・相の重要性を知る、一般常識マナーを知る 交際のマナーとしきたりを知る		講義	
3	言葉遣い			正しい敬語の使い方と感じの良い話し方を学ぶ		講義 GW	
4	話し方の基本知識			介護現場におけるホスピタルな話し方を学ぶ		講義	
5	電話応対と接遇			介護現場にふさわしい電話応対の仕方と言葉遣いを学ぶ 電話での様々なシーンの対応の仕方を学ぶ		講義 GW	テルコーチ
6	電話応対の実際			テルコーチを使っでのロールプレイング、自分の声の確認をする		ロープレ	
7	ビジネス文章の作成			社内、社外文書、封筒の書き方、慣用語、往復ハガキ 委任状の書き方を学ぶ		講義 プレゼン	
8	期末試験			筆記試験		試験	
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○		80	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト					
課題レポート					
授業態度			○	10	
演習(GW、技術等)			○	10	
担当教員	山本 詳子		実務経験紹介	無	

科目名	社会の理解 I			単位数	2	時間数	30
対象学生	1年	開設期	後期	教員実務経験対象	有		
授業概要	生活の基本機能とライフサイクルの変化及び家族、社会、組織、地域社会の概念を理解した上で、地域社会における生活支援を学ぶことができるよう講義する。 社会福祉と介護保険制度や他の介護実践制度に関する諸制度についての基礎的な知識を習得できるよう講義する。						
一般目標	1. 個人・家族・地域・社会のしくみ、地域共生社会、地域包括ケアシステムの基本的な考え方としくみが理解できる。 2. 高齢者保健福祉制度の基本的な考え方としくみ、介護保険制度の内容を整理し、高齢者福祉の現状と課題を理解できる。 3. 人間の尊厳と自立にかかわる権利擁護や個人情報保護などの制度・施策の基本的な考え方を理解できる。						
テキスト	「2 社会の理解」(中央法規)						
到達目標 (行動目標)							
知識 (認知領域) 介護保険制度、個人情報に関する制度等について、要約できる。							
技術 (精神運動領域) 知識 (認知領域) で要約したことをグループワーク(演習)で学習できる。							
態度 (情意領域) 自分の学習内容をふりかえり、学習意欲を継続できる。							
回数	項 目			内 容		授業 学習方法	備考
1	第3章 社会保障制度			日本の社会保障制度のしくみ		講義	
2	第3章 社会保障制度			日本の社会保障制度のしくみ		講義	
3	第4章 高齢者保健福祉と介護保険制度			介護保険制度		講義 演習	
4	第4章 高齢者保健福祉と介護保険制度			介護保険制度		講義	
5	第4章 高齢者保健福祉と介護保険制度			介護保険制度		講義	
6	第4章 高齢者保健福祉と介護保険制度			介護保険制度		講義	
7	第4章 高齢者保健福祉と介護保険制度			介護保険制度		講義	
8	第1章 社会と生活のしくみ			生活の基本機能とライフスタイルの変化		講義	
9	第2章 地域共生社会の実現に向けた制度や施策			地域共生社会、地域包括ケア		講義	
10	第2章 地域共生社会の実現に向けた制度や施策			DVD「コミュニティソーシャルワーカー」		講義 DVD	
11	第6章 介護実践に関連する諸制度			虐待防止に関する制度・施策		講義	
12	第6章 介護実践に関連する諸制度			成年後見制度と日常生活自立支援事業		講義	
13	第6章 介護実践に関連する諸制度			その他の個人の権利を守る制度・施策		講義	
14	まとめ			振り返り、国家試験対策		講義	
15	期末試験			筆記試験		試験	

成績評価方法					
	知識 (認知領域)	技術 (精神運動領域)	態度 (情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			80	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト					
課題レポート					
授業態度			○	10	
演習 (GW、技術等)		○		10	
担当教員	弘中 浩代		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	介護の基本Ⅰ－2			単位数	4	時間数	60
対象学生	1年	開設期	後期	教員実務経験対象		有	
授業概要	介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活に継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学習ができるよう講義する。						
一般目標	1. 複雑化・多様化・高度化する介護ニーズ及び介護福祉を取り巻く状況を社会的な課題として捉え、尊厳の保持や自立支援という介護福祉の基本となる理念を理解する。 2. ICFの視点に基づくアセスメントを理解し、エンパワメントの観点から、個々の状態に応じた自立を支援するための環境整備や介護予防、リハビリテーション、アクティビティ等の意義や方法を理解する。						
テキスト	「3 介護の基本Ⅰ」「4 介護の基本Ⅱ」(中央法規)						
到達目標(行動目標)							
知識(認知領域) 介護の意義と役割及び専門性について介護の歴史や関連法規を通して理解し、説明できる。介護実践の基本的姿勢についてノーマライゼーションやICF、アクティビティなどを理解し、説明できる。							
技術(精神運動領域) 利用者の理解及び自立に向けた介護実践に関わる概念や考え方などを理解し実践できる。							
態度(情意領域) 主体的に参加することができる(GWでの積極的な討議・意見交換、課題提出等)。							
回数	項 目		内 容			授業 学習方法	備考
1	介護福祉とは		尊厳を支える介護 事例から考える「尊厳」			講義 演習	
2	介護福祉とは		尊厳を支える介護 事例から考える「尊厳」			講義 演習	
3	介護福祉とは		尊厳を支える介護 事例から考える「尊厳」			講義 演習	
4	介護福祉とは		高齢者虐待防止法に規定されている「虐待のとらえ方」や具体例(統計数値)、虐待対応について			講義	
5	介護福祉とは		介護の成り立ち 介護の概念の変遷			講義	
6	介護福祉とは		自立を支える介護			講義	
7	介護の小史を知る		関連文献を検索する			講義 GW	
8	介護の小史を知る		介護の歴史と専門職の理解			GW	
9	介護の小史を知る		介護の歴史と専門職の理解			GW	
10	介護の小史を知る		介護の歴史と専門職の理解			GW	
11	介護の小史を知る		介護の歴史と専門職の理解			GW	
12	介護の小史を知る		介護の歴史と専門職の理解			GW	
13	介護の小史を知る		介護の歴史と専門職の理解(発表)			GW	
14	介護の小史を知る		介護の歴史と専門職の理解(発表)			GW	
15	介護の小史を知る		介護の歴史と専門職の理解(発表)			GW	

回数	項 目	内 容	授業 学習方法	備考
16	介護の小史を知る	介護の歴史と専門職の理解(まとめ)	GW 講義	
17	心身と生活の活性化を支援するアクティビティ	生きるための条件 衣、食、住以外にどのようなことが必要なのか アクティビティヒント 視点を変えるとこれもアクティビティ	講義 演習	
18	心身と生活の活性化を支援するアクティビティ	アクティビティヒント 貼り合わせ	講義 演習	
19	心身と生活の活性化を支援するアクティビティ	アクティビティヒント 貼り合わせ	演習 発表	
20	心身と生活の活性化を支援するアクティビティ	NHK人間ドキュメント「人生のお願いきます」	DVD	
21	心身と生活の活性化を支援するアクティビティ	アクティビティ理解(高齢者の娯楽活動) 花札	講義 演習	
22	心身と生活の活性化を支援するアクティビティ	アクティビティ理解(高齢者の娯楽活動) 将棋	講義 演習	
23	心身と生活の活性化を支援するアクティビティ	アクティビティ理解(高齢者の娯楽活動) マージャン	講義 演習	
24	心身と生活の活性化を支援するアクティビティ	アクティビティ理解(高齢者の娯楽活動) 百人一首	講義 演習	
25	心身と生活の活性化を支援するアクティビティ	アクティビティ理解 「最強のふたり」	DVD	
26	心身と生活の活性化を支援するアクティビティ	アクティビティ理解 「最強のふたり」	DVD	
27	自立に向けた介護	ICFの考え方 自己決定やQOLなどの考え方	講義	
28	自立に向けた介護	自立支援の考え方 ノーマライゼーションの意味と介護	講義	
29	総まとめ	試験について説明 全体の振り返り	講義	
30	期末試験	筆記試験	試験	

成績評価方法

		知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験		○			80	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト						
課題レポート		○	○		5	
授業態度				○	5	
演習(GW、技術)				○	10	
担当教員	福本 智子		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/	

科目名	コミュニケーション技術 I			単位数	2	時間数	30
対象学生	1年	開設期	後期	教員実務経験対象	有		
授業概要	介護におけるコミュニケーションの意義や目的、基本視点、技法を講義する。						
一般目標	1. 介護を実践する際の基本となるコミュニケーションについての考え方や技術が理解できる。 2. 演習を通し、コミュニケーション技法を習得する。						
テキスト	「5 コミュニケーション技術」(中央法規)						
到達目標(行動目標)							
知識(認知領域) 介護におけるコミュニケーションの意義や技法が説明できる。							
技術(精神運動領域) 介護場面において、利用者や家族と円滑にコミュニケーションを図るための技法を修得する。 チーム力を高めるコミュニケーションの方法を修得する。							
態度(情意領域) 授業に主体的に参加することができる(GWでの積極的な討議・意見交換等)。							
回数	項 目		内 容			授業 学習方法	備考
1	介護におけるコミュニケーションの基本		介護におけるコミュニケーションの目的 (演習)コミュニケーションと体の感覚			講義	
2	コミュニケーションの基本技術①		SOLER～表情、視線、反応			講義 演習	
3	コミュニケーションの基本技術②		SOLER～姿勢、態度、距離			講義 演習	
4	コミュニケーションの基本技術③		うなずき、相槌、くり返しの技法			講義 演習	
5	コミュニケーションの基本技術④		要約、共感の技法			講義 演習	
6	コミュニケーションの基本技術⑤		質問の技法～オープン・クエスチョン、クローズド・クエスチョン			講義 演習	
7	コミュニケーションの基本技術⑥		総合的コミュニケーション			講義 演習	
8	コミュニケーションの基本技術⑦		プロセスレコードの書き方			講義	
9	コミュニケーションの基本技術⑧		プロセスレコードの振り返り			講義 演習	
10	コミュニケーションの基本技術⑨		目的別のコミュニケーション技術			講義 演習	
11	コミュニケーションの基本技術⑩		DVD「インサイド・ヘッド」			講義 DVD	
12	コミュニケーションの基本技術⑪		コーチングとティーチング			講義 演習	
13	コミュニケーションの基本技術⑫		アサーション			講義 演習	
14	まとめ		振り返り、国家試験対策			講義	
15	期末試験		筆記試験			試験	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			70	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト					
課題レポート					
授業態度			○	10	
演習(GW、技術等)		○		20	
担当教員	弘中 浩代		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	生活支援技術Ⅰ－2 ①			単位数	2	時間数	30
対象学生	1年	開設期	後期	教員実務経験対象	有		
授業概要	個人に合わせた食生活を営むことで、利用者自身が食生活の楽しさや健康であることの重要性を感じ、その人らしく生きるための支援ができる知識・技術を養う。						
一般目標	1. 家庭に対する意識や重要性を学ぶ。 2. 食生活とは何かを知り、利用者自身が食生活の楽しさを感じる事が出来るような支援法を学ぶ。 3. 介護技術に必要な基礎知識での栄養学・調理学を学ぶ。						
テキスト	「6 生活支援技術Ⅰ」(中央法規) 新カラーチャート食品成分表(教育図書) わかりやすい介護のための栄養と調理(ミネルヴァ書房)						
到達目標(行動目標)							
知識(認知領域) 食生活の急激な変化を年代別に振り返ると共に、食生活の基本について説明できる。 高齢者の方々の人生を尊重しわかりあえるようになる。							
技術(精神運動領域) 健康に関連した、栄養素やBMIの計算ができる。							
態度(情意領域) 主体的に参加することができる(GWでの積極的な意見交換等)。 事前準備(テキスト等の準備、ファイルでの整理整頓等)。							
回数	項 目			内 容		授業 学習方法	備考
1	食生活の変遷			社会変動と日本人の食文化 食生活の変化		講義	
2	栄養について理解①			栄養素の働き、代謝		講義	
3	栄養について理解②			五大栄養素について詳しく学ぶ (必須アミノ酸・必須脂肪酸)		講義	
4	献立を立てるための基礎知識			六つ基礎食品、三色食品群 緑黄色野菜とその他の野菜について、ワークシート		講義 演習	
5	食品の購入と選択			消費期限と賞味期限、遺伝子組み換え食品 食物アレルギー、食品添加物等について		講義	
6	食品の保存			冷凍、解凍、食品衛生、食中毒予防		講義	
7	調理の基本			非加熱操作と加熱操作 野菜の切り方 調味料 塩分濃度(うす味で美味しくする出しについて)		講義	
8	食品の調理性 ①			米、小麦粉、野菜の調理生		講義	
9	食品の調理性 ②			肉類、魚介類の調理性 でんぷん、寒天、ゼラチンの調理性		講義	
10	食品成分表の活用について			成分表の使い方を知る 栄養計算をする		講義 演習	
11	高齢者の身体機能と栄養			消化・吸収、人体の構成、身体の特徴 味覚・嗅覚・資格の変化 嚥下(ソフト食)		講義	
12	食生活に関する施策			食事摂取基準、食生活指針 食事バランスガイド、自己の食生活を振り返る		講義 演習	
13	高齢者と疾病			生活習慣病 標準体重、適性エネルギー、BMIを求める		講義 演習	
14	介護のための栄養と調理			高齢者が喜ぶ献立を考える		講義 GW	
15	実習事前準備			安全・衛生面について、調理器具の扱い方 計量について		講義	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			85	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト					
課題レポート	○			5	
授業態度			○	5	
演習(GW、技術等)	○			5	
担当教員	原田 綾子		実務経験紹介	無	

科目名	生活支援技術Ⅰ－２②			単位数	2	時間数	30
対象学生	1年	開設期	後期	教員実務経験対象	有		
授業概要	食事の重要性について理解し、調理の基本を養う。 高齢者及び障がい者の食事を理解し、食事援助の技術を養う。						
一般目標	1. 栄養のバランスや調理の組み合わせを学ぶ。 2. 高齢者・障害者に適した食事を理解する。 3. 実習においてはチームワークの重要性を認識し、協調性を養う。						
テキスト	「6 生活支援技術Ⅰ」(中央法規)						
到達目標(行動目標)							
知識(認知領域) 調理学を使用することができる。							
技術(精神運動領域) 講義で学んだ事を調理実習で実践できる。							
態度(情意領域) 主体的に参加することができる(調理実習においてはグループ行動であるので自主的に参加できること)。 事前準備(テキスト等の準備、ファイルでの整理整頓等)。							
回数	項 目			内 容		授業 学習方法	備考
1	高齢者の食事①			バランス食の調理実習(食品の計量)		講義 実習	
2	高齢者の食事①			バランス食の調理実習(食品の計量)		講義 実習	
3	高齢者の食事②			魚を扱っての調理実習(魚の扱い方)		講義 実習	
4	高齢者の食事②			魚を扱っての調理実習(調理の作業工程と時間)		講義 実習	
5	高齢者の食事③			煮物・焼物の調理実習(食生活チェック)		講義 実習	
6	高齢者の食事③			煮物・焼物の調理実習		講義 実習	
7	高齢者の食事④			軟食の調理実習(嚥下困難対応)		講義 実習	
8	高齢者の食事④			軟食の調理実習(嚥下困難対応)		講義 実習	
9	胃腸障害がある時の食事			粥食の調理実習		講義 実習	
10	胃腸障害がある時の食事			粥食の調理実習		講義 実習	
11	生活習慣病の食事			糖尿病の調理実習(生活習慣病の復習)		講義 実習	
12	生活習慣病の食事			糖尿病の調理実習(生活習慣病の復習)		講義 実習	
13	自主献立			各班で高齢者に喜ばれる献立を立てて実習		実習	
14	自主献立			各班で高齢者に喜ばれる献立を立てて実習		実習	
15	まとめ			振り返り 国家試験問題(過去問演習)		講義	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			85	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト					
課題レポート	○			5	
授業態度			○	5	
演習(GW、技術等)	○			5	
担当教員	原田 綾子		実務経験紹介	無	

科目名	生活支援技術Ⅱ－2			単位数	4	時間数	60
対象学生	1年	開設期	後期	教員実務経験対象		有	
授業概要	尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。						
一般目標	1. 介護福祉士に求められる役割と機能を理解し、専門職としての態度を養う。 2. 介護を実践する対象、場によらず、様々な場面に必要とされる介護の基礎的な知識・技術を習得する。						
テキスト	「7 生活支援技術Ⅱ」「6 生活支援技術Ⅰ」(中央法規)						
到達目標(行動目標)							
知識(認知領域) 利用者を安全に援助できる技術について説明できる。							
技術(精神運動領域) 利用者の状況に応じた介護技術を展開できる。							
態度(情意領域) 授業に積極的に参加することができる。(周囲と協力する、周囲に配慮する、周囲と討議する)							
回数	項 目		内 容			授業 学習方法	備考
1	自立に向けた入浴・清潔保持の介護		ベッド上での洗髪介助 (環境準備・物品準備手順方法技術練習)			演習	
2	自立に向けた入浴・清潔保持の介護		ベッド上での洗髪介助・ケリーパッド (環境準備・物品準備・手順方法)			演習	
3	自立に向けた移動・移乗介助		ベッド上での体位変換 (仰臥位・側臥位・水平移動・上方移動) 全介助			演習	
4	自立に向けた移動・移乗介助		ベッド上での体位変換(仰臥位・側臥位・水平移動・上方移動) 全介助			演習	
5	自立に向けた身じたくの介護		ベッド上での衣服の着替え介助 (前開き上衣・下衣・靴下 準備・手順方法)			演習	
6	自立に向けた身じたくの介護		ベッド上での衣服の着替え介助 (前開き上衣・下衣・靴下 準備・手順方法技術練習)			演習	
7	自立に向けた身じたくの介護		ベッド上での衣服の着替え介助 (浴衣 準備・手順方法)			演習	
8	自立に向けた身じたくの介護		ベッド上での衣服の着替え介助 (浴衣 準備・手順方法技術練習)			演習	
9	自立に向けた排泄の介護		排泄における福祉用具 (ポータブルトイレ・紙おむつ・布おむつ・パッド・紙パンツ・紙尿器・差し込み便器等)			演習	
10	自立に向けた排泄の介護		トイレを使用した排泄介助 (トイレ誘導・便器への誘導・着脱等手順方法)			演習	
11	自立に向けた排泄の介護		ポータブルトイレを使用した排泄介助 (環境準備・手順方法)			演習	
12	自立に向けた排泄の介護		ポータブルトイレを使用した排泄介助 (環境準備・手順方法技術練習)			演習	
13	自立に向けた排泄の介護		おむつを使用した排泄介助・紙おむつ・布おむつ (準備・手順方法)			演習	
14	自立に向けた排泄の介護		おむつを使用した排泄介助・紙おむつ・布おむつ (準備・手順方法技術練習)			演習	
15	自立に向けた排泄の介護		尿器・差し込み便器を使用した排泄介助 (準備・手順方法・技術練習)			演習	

回数	項 目	内 容	授業 学習方法	備考
16	自立に向けた生活支援	高齢者疑似体験	演習	
17	①自立に向けた入浴・清潔保持の介助	①ベッド上での陰部清拭・陰部洗浄の介助(準備)	演習	
18	②自立に向けた入浴・清潔保持の介助	②ベッド上での陰部清拭・陰部洗浄の介助(手順方法)	演習	
19	自立に向けた身じたくの介護	口腔ケアの定義 口腔ケアの目的と効果 口腔ケアの基本 口腔体操等	演習	
20	自立に向けた身じたくの介護	口腔ケアの介助(座位・ベッド上) (ブラッシング法・口腔清拭 義歯洗浄の手順方法)技術練習	演習	
21	自立に向けた身じたくの介護	爪の手入れの意義と目的 基本的な爪の切り方 爪の異常	演習	
22	自立に向けた身じたくの介護	爪切り、やすりを使用した爪の手入れ(手足) (爪切り準備・手順方法)技術練習	演習	
23	①自立に向けた福祉用具活用の視点	福祉用具を活用した移乗・移動介助 (リフター・スライディングシート・ボード準備・手順方法)	演習	
24	②自立に向けた福祉用具活用の視点	福祉用具を活用した移乗・移動介助 (リフター・スライディングシート・ボード準備・手順方法)	演習	
25	自立に向けた福祉用具活用の視点	今後の福祉機器とICTの広がり (介護ロボット・ICTの活用)	演習	
26	自立に向けた移動の介護	床からの立ち上がり介助 (立ち上がり動作の理解・立ち上がり介助手順方法)	演習	
27	自立に向けた移動の介護	床からの立ち上がり介助 (立ち上がり動作の理解・立ち上がり介助手順方法)技術練習	演習	
28	技術練習	事例を用いて技術展開	演習	
29	技術練習	事例を用いて技術展開	講義	
30	期末試験	筆記試験	試験	

成績評価方法

		知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験		○			60	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト						
課題レポート		○			10	
授業態度				○	20	
演習(GW、技術等)			○		10	
担当教員	山本 芳徳 松澤 可奈子		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/	

科目名	生活支援技術Ⅲ－1			単位数	2	時間数	30
対象学生	1年	開設期	後期	教員実務経験対象	有		
授業概要	障害者支援に付いて、介護福祉士に求められる役割を理解し、専門職としての知識・技術・接遇(態度)を養う。 障害について、それぞれの障害の理解を深め自立支援の必要性と、その人らしい生活を支えるための基本的な介護技術を学ぶ。						
一般目標	1 障害があっても、なるべく自立生活が継続されるように、状況に合わせた自立支援の必要性が理解できて支援が提供できる。 2 現在の状態を把握し、なるべく自立生活が継続できるように、潜在能力を引き出していく介護支援の必要性が理解できる。 3 個別性を重視した介護の展開や他職種連携の必要性を理解して、場面場面で必要な介護技術を安全に提供できるようにする。						
テキスト	最新・介護福祉士養成講座 8 生活支援技術Ⅲ 中央法規						
到達目標							
知識(認知領域)	それぞれの障害について理解できる。 支援提供時の安全、安心、安楽の必要性が理解できて提供できる。 それぞれの障害者への自立支援の必要性、その人らしい生活を支えるための基本的な介護技術方法を説明できる。						
技術(精神運動領域)	それぞれの障害者への自立支援が提供できるように、観察力・洞察力の必要性和コミュニケーション技術を習得する。 それぞれの障害者やご家族、その他の方への説明・報告・相談ができるようなコミュニケーション技術を習得する。						
態度(情意領域)	主体的に講義・GW・演習に参加できる。 事前準備(テキストの準備・配布物の整理整頓)。						
回数	項 目			内 容		授業 学習方法	備考
1	利用者の状態・状況に応じた生活支援技術とは			社会福祉士及び介護福祉士法における介護福祉士の定義の変遷、利用者像の理解、介護福祉士に求められること		講義	
2	肢体不自由に応じた介護			肢体不自由のある人の日常生活動作の理解 生活場面と支援のポイント・介護技術の展開		講義	
3	視覚障害に応じた介護			視覚障害のある人の生活の理解、生活支援と環境整備		講義 演習	
4	視覚障害に応じた介護			介護技術の展開、他職種の役割と協働・連携の必要性		講義 演習	
5	聴覚・言語障害に応じた介護			聴覚障害・聴力検査・補聴器について 言語障害の理解・コミュニケーションの保障について		講義 演習	
6	重複障害(盲ろう)に応じた介護			盲ろう者と生活の理解、生活支援と環境整備 移動における介護技術の展開、他職種の役割と協働・連携		講義 GW	
7	内部障害に応じた介護			心臓機能障害の理解と、介護技術の展開		講義	
8	内部障害に応じた介護			呼吸器機能障害の理解と、介護技術の展開		講義	
9	内部障害に応じた介護			腎機能障害の理解と、介護技術の展開		講義	
10	内部障害に応じた介護			膀胱・直腸機能障害の理解と、介護技術の展開		講義	
11	内部障害に応じた介護			小腸機能障害の理解と、介護技術の展開		講義	
12	内部障害に応じた介護			HIVによる免疫機能障害の理解と、介護技術の展開		講義	
13	内部障害に応じた介護			肝臓機能障害の理解と、介護技術の展開		講義	
14	重症心身障害に応じた介護			重症心身障害のある人の生活の理解、生活支援と介護技術の展開、他職種の役割と協働・連携の必要性		講義	
15	期末試験			筆記試験		試験	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			80	秀(4):90点以上
小テスト					優(3):80点以上
宿題授業外レポート					良(2):70点以上
授業態度			○	10	可(1):60点以上
発表・作品					不可(0):60点未満
演習		○		10	未修得
出席					()内はGP点数
担当教員	豊田 真由美	実務経験紹介	無		

科目名	介護過程Ⅰ			単位数	4	時間数	60
対象学生	1年	開設期	後期	教員実務経験対象		有	
授業概要	本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程の基礎が理解できるようにする。他の科目で学習した介護福祉の知識や技術を統合し、介護福祉利用者や家族のニーズをふまえた適切な支援が導き出せるように講義する。						
一般目標	1. 介護過程の意義目的・展開プロセス・基本視点が理解できる。 2. 介護過程の全体像の理解・他科目との関係性から介護過程の科目の特徴が理解できる。 3. 事例を通し、アセスメントの必要性・計画立案までの思考が理解できる。						
テキスト	「9 介護過程」 実習要項 参考文献：「事例で読み解く介護過程の展開」(中央法規) 「16 資料編」						
到達目標(行動目標)							
知識(認知領域) 介護過程の意義目的・展開プロセス・基本視点について説明できる。 他科目で学んだICFの考えを介護過程の思考過程と関連づけることができる。							
技術(精神運動領域) 事例を用いてアセスメント(情報の解釈・関連づけ・統合化)、介護計画の立案を反復する。							
態度(情意領域) 主体的に参加し協力できる(GWでの積極的な討議・意見交換、課題提出等)。							
回数	項 目			内 容		授業 学習方法	備考
1	他の専門科目と介護過程との関係性			自己理解・他者理解 介護過程の位置づけ		講義 GW	
2	介護過程の意義と目的			介護過程の意義と目的の理解 介護過程の全体像・ICFとの関連性		講義	
3	生活支援における介護過程の必要性			生活支援における介護過程の意義 介護サービス計画と個別援助計画書の関係		講義	
4	介護過程の理解			介護過程の展開・アセスメントの視点、他科目との連動 カンファレンス・サービス担当者会議について		講義	
5	ニーズとは			ニーズ・デマンド・デザイアの関係性 ICFの視点		講義 GW	ファイル準備 2冊
6	アセスメント			情報収集の意義(意図的な情報収集) アセスメントと情報収集		講義	
7	アセスメント(情報収集)			情報収集の方法		講義	
8	アセスメント(情報収集)			情報収集する際の観察項目について		GW	
9	アセスメント(情報収集)			情報収集する際の観察項目について(共通理解)		GW	
10	アセスメント(本校アセスメントシート)			ケース記録(個別援助計画書)の考え方		講義	
11	アセスメント(情報の解釈・関連づけ・統合化)			情報の解釈・関連づけ・統合化の考え方		講義	
12	アセスメント(情報の解釈・関連づけ・統合化)			情報の解釈・関連づけ・統合化の考え方(事例)		講義 GW	
13	アセスメント(課題の明確化)			生活課題の明確化について		講義	
14	アセスメント			施設の取り組みから「個性」「役割意識」「意欲づけ」を学ぶ		DVD 講義	
15	事例①(情報収集)			本校アセスメントシートを活用し実際に記入		個人 ワーク	

回数	項 目	内 容	授業 学習方法	備考
16	事例①(情報収集)	本校アセスメントシートを活用し実際に記入	個人 ワーク	
17	事例①(生活課題の明確化)	グループワークから生活課題を探る (手法:ブレインストーミング・KJ法)	GW	
18	事例①(生活課題の明確化)	グループワークから生活課題を明確にする (手法:クロスインタビュー方式で発表)	GW	
19	事例①(アセスメント)	事例①のアセスメントについての共通理解	講義	
20	介護計画の立案	個別ケア提供における介護計画の意義 介護計画における介護目標の設定方法の理解	講義	
21	介護計画の立案	介護計画の立案方法についての理解	講義	
22	事例検討会	介護福祉学科2年生のケアカンファレンスに参加 実際の介護過程の展開について知る	発表会	
23	事例検討会	介護福祉学科2年生のケアカンファレンスに参加 実際の介護過程の展開について知る	発表会	
24	事例①(介護計画の立案)	事例①の生活課題から介護計画を立案	個人 ワーク	
25	事例①(介護計画の立案)	事例①の生活課題から介護計画を立案 立案した計画を全体で共有化(発表)	GW	
26	事例①(介護計画の立案)	立案した計画を全体で共有化(発表) 記載時の留意点確認	GW 講義	
27	個別ケアについて	実際の事例から展開の多様性を学ぶ	DVD	
28	個別ケアについて	実際の事例から展開の多様性を学ぶ	DVD 講義	
29	アセスメント・介護計画の立案 まとめ	振り返り 国家試験「介護過程」今年度の問題の確認	講義	
30	期末試験	筆記試験 振り返り	試験	

成績評価方法

		知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験		○			80	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト		○			5	
課題レポート		○	○		5	
授業態度				○	5	
演習(GW、技術)				○	5	
担当教員	有本 徹哉		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/	

科目名	介護総合演習Ⅱ			単位数	2	時間数	30
対象学生	1年	開設期	後期	教員実務経験対象	有		
授業概要	介護実践に必要な知識や技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う。						
一般目標	1.介護福祉士に求められる役割を理解し専門職としての態度を身につける。 2.本人、家族等との関係性の構築やチームケアを実践するための、コミュニケーションの基礎的な知識・技術を習得する。 3. 実習に向かうために必要な知識や技術を身につける。						
テキスト	「10 介護総合演習・介護実習」(中央法規) 「よくわかる介護記録の書き方」(メジカルフレンド社) 実習要項						
到達目標(行動目標)							
知識(認知領域) 実習の振り返りを通じ、利用者の様々な暮らしの理解と、専門職としてのあり方について説明できる。							
技術(精神運動領域) 実習に向かうために必要な知識や技術を習得し、実施の振り返りができる。							
態度(情意領域) 授業に積極的に参加することができる。(周囲と協力する、周囲に配慮する、周囲と討議する)							
回数	項 目			内 容		授業 学習方法	備考
1	介護実習Ⅰ－2について			実習要項・実習の心得 (介護実習Ⅰ－2の意義と目的)		講義	
2	施設理解			①実習先の特徴、実習先での学び 特別養護老人ホーム・介護老人保健施設・障害者施設		講義 DVD視聴	
3	施設理解			②実習先の特徴、実習先での学び 特別養護老人ホーム・介護老人保健施設・障害者施設		講義 DVD視聴	
4	実習準備			①個人票・実習誓約書・ねらいの作成 記録物の配布		講義	
5	実習準備			②個人票・実習誓約書・ねらいの作成 記録物の配布		講義 演習	
6	実習準備			①レクリエーション計画書の作成		講義 演習	
7	実習準備			②レクリエーション計画書の作成		講義 演習	
8	実習準備			介護の留意点のまとめ		講義 演習	
9	実習準備			介護技術の復習		講義 演習	
10	グループミーティング			実習先の特徴、実習先での学び 各担当教員より事前訪問、実習についての説明		講義 演習	
11	実習事後学習			自己評価・実施技術の記入 レポート(実習のまとめ・自己課題の分析)		講義 演習	
12	実習事後学習			介護実習内容を総復習し、学んだ内容についてまとめる 次回の実習に向けて、課題などを整理する		講義 演習	
13	実習事後学習			実習の振り返り・まとめ (様々なコミュニケーションについて検討してまとめる)		講義 演習	
14	実習事後学習			まとめレポートの発表		講義	
15	期末試験			筆記試験		講義	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			80	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト					
課題レポート	○			10	
授業態度			○	10	
演習(GW、技術等)					
担当教員	福本 智子		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	発達と老化の理解Ⅱ			単位数	2	時間数	30
対象学生	1年	開設期	後期	教員実務経験対象	有		
授業概要	老化に伴う心理や、身体機能の変化の特徴に関する基本的知識を習得できるよう講義する。						
一般目標	1. 老化に伴う症状と疾患の特徴、留意点について理解できる。2. 保健医療職との連携に関する基本的知識を得ることができる。						
テキスト	「12 発達と老化の理解」(中央法規)「介護福祉用語辞典」(中央法規)「ぜんぶわかる 人体解剖図」(成美堂)						
到達目標(行動目標)							
知識(認知領域) 老化に伴う症状と疾患の特徴、留意点について説明できる。 保健医療職との連携について説明できる。							
態度(情意領域) 主体的に参加することができる。							
回数	項 目			内 容		授業 学習方法	備考
1	高齢者と健康			健康長寿に向けての健康、高齢者の症状・疾患の特徴、健康日本21、廃用症候群		講義	
2	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点① 骨・関節系の病気			骨粗鬆症、変形性膝関節症、変形性脊椎症、腰部脊柱管狭窄症、関節リウマチ、高齢者に多い骨折		講義	
3	小テスト 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点② 脳・神経系			パーキンソン病、脳血管疾患		講義 試験	
4	老年期に多い病気とその留意点① 皮膚・感覚系			白内障、緑内障、加齢黄斑変性、皮膚掻痒症、白癬、疥癬		講義	
5	老年期に多い病気とその留意点② 循環器系			高血圧症、虚血性心疾患、不整脈、心不全、閉塞性動脈硬化症		講義	
6	小テスト 老年期に多い病気とその留意点③ 呼吸器系			慢性閉塞性肺疾患(COPD)、肺炎、結核、喘息		講義 試験	
7	老年期に多い病気とその留意点④消化器系			要点整理 消化性潰瘍、逆流性食道炎、肝硬変		講義	
8	老年期に多い病気とその留意点⑤ 腎・泌尿器系			前立腺疾患、尿路感染症、慢性腎臓病		講義	
9	老年期に多い病気とその留意点⑥ 内分泌代謝系			糖尿病、脂質異常症、痛風		講義	
10	老年期に多い病気とその留意点⑦ 歯・口腔疾患、悪性新生物			虫歯(齲蝕)、歯周病、ドライマウス、胃がん、肺がん、大腸がん		講義	
11	老年期に多い病気とその留意点⑧ 感染症			ウイルス性呼吸器感染症、感染性胃腸炎、胆のう炎・胆管炎		講義	
12	老年期に多い病気とその留意点⑨ 精神疾患			うつ病、統合失調症		講義	
13	老年期に多い病気とその留意点⑩ その他 高齢者に多い疾患			熱中症、脱水症、貧血		講義	
14	保健医療職との連携、まとめ			連携について、高齢者に多い疾患、要点の整理		講義	
15	期末試験			筆記試験		試験	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			80	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト	○			15	
課題レポート					
授業態度			○	5	
演習(GW、技術等)					
担当教員	水本 博子		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	認知症の理解Ⅱ			単位数	2	時間数	30
対象学生	1年	開設期	後期	教員実務経験対象	有		
授業概要	認知症の人の日常生活を支えるケアの実際を講義する。 認知症に関する制度を理解し多職種連携のあり方を養う。						
一般目標	1. 認知症の人の日常生活を支えるケアの実際を理解する。 2. 家族への支援を理解する。 3. 認知症に関する制度と多職種連携を理解する。						
テキスト	「13 認知症の理解」(中央法規)						
到達目標(行動目標)							
知識(認知領域) 授業で取り上げた認知症ケア、介護者支援、制度について説明できる。							
態度(情意領域) 授業に出席し、積極的に参加することができる。(周囲と協力する、周囲に配慮する、周囲と討議する)							
回数	項 目		内 容			授業 学習方法	備考
1	パーソン・センタード・ケア		パーソン・センタード・ケア、 「聞く」「集める」「見つける」の3つのステップ			講義・演習	
2	認知症の人のアセスメント・ツール		認知症の人を理解するために、センター方式、 ひもときシート、健康状態のアセスメント			講義・演習	
3	認知症の人とのコミュニケーション		コミュニケーションの基本的な理解、 認知症の人とのコミュニケーション			講義・演習	
4	認知症の人へのケア		食事のケア、排泄のケア、入浴のケア、清潔保持のケア			講義・演習	
5	認知症の人へのケア		休息と睡眠のケア、活動・いきがいのケア、BPSDのケア			講義・演習	
6	認知症の人へのアプローチ		ユマニチュード、バリデーション、 認知症ケア・マッピング(DCM)、回想法、聞き書き			講義・演習	
7	認知症の人の終末期医療と介護		終末期医療と介護、認知症の人の終末期の主な課題			講義・演習	
8	環境づくり		認知症と環境、環境と向き合う力、環境的圧力、 物理的な環境、3つの苦難と5つの落差、環境づくりの実際、 環境づくりのポイント			講義・演習	
9	家族への支援		家族を支える視点、家族の心理過程と葛藤、レスパイトケア、 介護福祉職が行う家族への支援			講義・演習	
10	介護福祉職への支援		働きやすい職場環境の整備、 ケアモデルを実践するための環境整備			講義・演習	
11	制度、サービス、機関、地域づくり		オレンジプランから新オレンジプランへ、認知症の鑑別、診断			講義・演習	
12	制度、サービス、機関、地域づくり		新オレンジプラン、若年性認知症の人への支援、 認知症当事者による支援			講義・演習	
13	多職種連携と協働		多職種連携と協働、認知症ライフサポートモデル			講義・演習	
14	まとめ		振り返り、国家試験対策を含めての要点整理			講義・演習	
15	期末試験		筆記試験			試験	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			60	秀(4):90点以上
小テスト					優(3):80点以上
レポート	○	○	○	10	良(2):70点以上
授業態度			○	10	可(1):60点以上
発表・作品					不可(0):60点未満
演習(GW、技術)	○	○	○	20	未修得
出席					()内はGP点数
担当教員	長 弘 亮二		実務経験紹介	無	

科目名	障害の理解 I			単位数	2	時間数	30
対象学生	1年	開設期	後期	教員実務経験対象	有		
授業概要	障害のある人の身体機能や心理に関する基礎的知識を習得し、障害のある人の体験を理解できるように講義をする。						
一般目標	1. 障害の概念や障害者福祉の基本理念について理解する。 2. 障害のある人に関する医学的・心理的な基礎知識を習得し、障害のある人の生活に応じた支援を理解する。						
テキスト	「14 障害の理解」(中央法規)「ぜんぶわかる 人体解剖図」(成美堂)「介護福祉用語辞典」(中央法規)						
到達目標(行動目標)							
知識(認知領域) 障害の概念や障害者福祉の基本理念について説明できる。 障害のある人に関する医学的・心理的な基礎知識を修得し、障害のある人の生活に応じた支援を説明できる。							
態度(情意領域) 主体的に参加することができる。							
回数	項 目			内 容		授業 学習方法	備考
1	障害の概念 わが国における障害者の法的定義			障害のとらえ方、ICIDHからICFへの変遷、障害者の法的定義、障害者の概数		講義 DVD視聴	
2	障害者福祉の基本理念			ノーマライゼーション、リハビリテーション、インクルージョン		講義	
3	肢体不自由(運動機能障害)、小テスト			肢体不自由とは、肢体不自由の種類、原因と特性の理解、 肢体不自由のある人の心理的理解と生活の理解、小テスト		講義 DVD視聴	
4	視覚障害			視覚の構造と機能、視覚障害の種類、原因と特性の理解、 視覚障害のある人の心理的理解と生活の理解		講義 演習	
5	聴覚・言語障害			聴覚の構造と機能、聴覚・言語機能障害の種類、原因と特性 の理解、聴覚・言語障害のある人の心理的理解と生活の理解		講義 演習	
6	要点のまとめ、小テスト			国家試験対策も含めての要点整理、小テスト		試験 講義	
7	重複障害			重複障害とは 盲ろう重複障害のある人の心理的理解と生活の理解		講義 DVD視聴	
8	心臓機能障害(内部障害)			心臓機能障害とは(原因疾患と症状、治療) 心臓機能障害のある人の心理的理解と生活の理解		講義	
9	呼吸機能障害(内部障害)			呼吸機能障害とは(原因疾患と症状、治療) 心臓機能障害のある人の心理的理解と生活の理解		講義	
10	腎臓機能障害(内部障害)			腎臓機能障害とは(原因疾患と症状、治療) 腎臓機能障害のある人の心理的理解と生活の理解		講義 DVD視聴	
11	膀胱・直腸機能障害(内部障害)			膀胱・直腸機能障害とは(原因疾患と症状、治療) 膀胱・直腸機能障害のある人の心理的理解と生活の理解		講義	
12	ヒト免疫不全ウイルスによる 免疫機能障害(内部障害)			HIVによる免疫機能障害とは(原因と症状、治療) HIVによる免疫機能障害のある人の心理的理解と生活の理解		講義	
13	肝臓機能障害(内部障害)			肝臓機能障害とは(原因疾患と症状、治療) 肝臓機能障害のある人の心理的理解と生活の理解		講義	
14	障害者福祉に関連する制度 障害者福祉制度と介護保険制度、 要点のまとめ			障害者虐待防止法、障害者福祉制度と介護保険制度の違い		講義	
15	期末試験			国家試験対策も含めての要点整理、筆記試験		試験	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			80	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト	○			15	
課題レポート					
授業態度			○	5	
演習(GW、技術等)					
担当教員	南田 直子		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	こころとからだのしくみⅢ			単位数	2	時間数	30
対象学生	1年	開設期	後期	教員実務経験対象	有		
授業概要	介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解する講義とする。						
一般目標	生活支援を行う際に必要となる基礎的な知識として、生活支援の場面に応じたこころとからだのしくみ、及び機能低下や障害が生活に及ぼす影響について理解する。						
テキスト	「11 こころとからだのしくみ」「7 生活支援技術Ⅱ」(中央法規)						
到達目標(行動目標)							
知識(認知領域) 生活支援に必要とされる基本的な心身の構造と機能について説明できる。心身機能の低下が人体に及ぼす影響を説明できる。							
態度(情意領域) 授業に積極的に参加することができる(周囲と協力する、周囲に配慮する、周囲と討議する)。							
回数	項 目			内 容		授業 学習方法	備考
1	排泄のしくみ			なぜ排泄をするのか 排泄に関連したこころのしくみ		講義	
2	排泄のしくみ			排泄に関連したからだのしくみ 尿排出のしくみ・蓄便と便排出の仕組み・人工膀胱のしくみ		講義	
3	心身の機能低下が排泄に及ぼす影響①			精神、判断力の低下が排泄に及ぼす影響 ストレスが及ぼす影響		講義	
4	心身の機能低下が排泄に及ぼす影響②			身体機能の低下が排泄に及ぼす影響・排尿障害・排便障害		講義 DVD視聴	
5	排泄に関連したこころとからだのしくみ			確認テスト・振り返り		講義	
6	身じたくに関連したからだ・こころのしくみ			爪・口腔・歯・舌の構造と機能・清潔について		講義	
7	心身機能低下が身じたくに及ぼす影響			精神機能・身体機能の低下が身じたくに及ぼす影響		講義 DVD視聴	
7	変化と気づきの対応			変化に対する観察ポイント 身じたくでの医療職との連携ポイント		講義	
8	身じたくに関連したからだ・こころのしくみ			確認テスト・振り返り		講義	
9	休息・睡眠のしくみ② 心身の機能低下が睡眠に及ぼす影響			なぜ睡眠をとるのか睡眠のしくみ・睡眠の質を高める 休息・睡眠に影響を及ぼす心身機能の低下		講義 DVD視聴	
10	変化の気づくためのポイント②			睡眠での観察ポイント、医療職との連携ポイント、緊急対応		講義	
11	休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ			確認テスト・振り返り		講義 演習	
13	要点のまとめ			国家試験対策も含めての要点整理		講義	
14	まとめ			国家試験対策		講義	
15	期末試験			筆記試験・振り返り		試験	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			80	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト					
課題レポート					
授業態度			○	20	
演習(GW、技術等)					
担当教員	山本 芳徳		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	就職実務Ⅰ			単位数		時間数	16
対象学生	1年	開設期	後期	教員実務経験対象	有		
授業概要	職業に対してしっかりと意識づけを行い、就職活動に向けての動機づけをする。						
一般目標	1. 施設で求められる人材について理解する。 2. 自己理解・職業理解についての理解を深め、自己PRする力を身につける。 3. 求職票を作成し、履歴書の書き方を学習する。 4. 就職活動の流れを把握する。						
テキスト	「キャリアプランからはじめる就職活動 実践！ワークブック」(PHP研究所)						
到達目標(行動目標)							
知識(認知領域)							
技術(精神運動領域)							
態度(情意領域)							
回数	項 目			内 容		授業 学習方法	備考
1	就職実務について			就職活動の大まかな流れ 就職活動提出書類の記入方法 求人情報と求人票の見方		講義	
2	就職先について考える			自宅周辺施設と就職希望地域の施設を調べる		講義	
3	求職票について			求職票の作成		講義	
4	自己分析			自己分析の必要性		講義	
5	自己理解			自分の強みとは何か		講義	
6	履歴書について			強みを活かした自己PRの書き方		講義	
7	履歴書について			履歴書の基本的な記入方法について 履歴書作成		講義	
8	履歴書について			履歴書作成		講義	
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験					秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト					
宿題授業外レポート					
授業態度					
発表・作品					
演習					
出席					
担当教員	介護専任教員・YIC本部教員	実務経験紹介	有		

科目名	社会の理解Ⅱ			単位数	2	時間数	30
対象学生	2年	開設期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要	地域共生社会の実現に向けた制度や施策、社会保障制度、障害者福祉と障害者保健福祉制度や他の介護実践制度に関する諸制度にどのようなものがあるか具体的に学ぶことができるよう講義する。						
一般目標	1. 障害者保健福祉制度の基本的な考え方としくみ、障害者総合支援制度の内容を整理し、障害者福祉の現状と課題を理解できる。 2. 社会保障制度の基本的な考え方としくみが理解できる。						
テキスト	「2 社会の理解」(中央法規)						
到達目標(行動目標)							
知識(認知領域) 障害者総合支援制度、社会保障制度及び地域共生社会、地域包括ケアシステムについて要約できる。							
技術(精神運動領域) 知識(認知領域)で要約したことをグループワーク(演習)で学習できる。							
態度(情意領域) 自分の学習内容をふりかえり、学習意欲を継続できる。							
回数	項 目			内 容		授業 学習方法	備考
1	第5章 障害者保健福祉と障害者総合支援制度			障害者保健福祉の動向		講義	
2	第5章 障害者保健福祉と障害者総合支援制度			障害者保健福祉に関連する法体系		講義 DVD	
3	第5章 障害者保健福祉と障害者総合支援制度			障害者総合支援制度		講義	
4	第5章 障害者保健福祉と障害者総合支援制度			障害者総合支援制度		講義	
5	第5章 障害者保健福祉と障害者総合支援制度			障害者総合支援制度		講義	
6	第3章 社会保障制度			社会福祉法		講義	
7	第3章 社会保障制度			保健医療に関する制度・施策、社会手当		講義	
8	第3章 社会保障制度			年金保険		講義	
9	第3章 社会保障制度			労働保険		講義	
10	第3章 社会保障制度			医療保険		講義	
11	第6章 介護実践に関連する諸制度			貧困対策・生活困窮者に対する制度・施策		講義	
12	第6章 介護実践に関連する諸制度			貧困対策・生活困窮者に対する制度・施策		講義 DVD	
13	第6章 介護実践に関連する諸制度			貧困対策・生活困窮者に対する制度・施策		講義 DVD	
14	まとめ			振り返り、国家試験対策		講義	
15	期末試験			筆記試験		試験	

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			80	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト					
課題レポート					
授業態度			○	10	
演習(GW、技術等)		○		10	
担当教員	弘中 浩代		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	情報処理演習			単位数	2	30
対象学生	2年	開設期	前期	教員実務経験対象	有	
授業概要	介護福祉士として必要とされる情報処理活用能力のうち、Wordを利用した文書作成ができる能力を養う。					
一般目標	1. Wordの機能のうち、文字入力(英数字、カタカナ、漢字、手書き)及び表を利用した一般的な文書作成ができる。 2. Wordを活用してビジネス文章の作成ができる。 3. サーティファイ主催Word文書処理技能認定試験3級合格。(希望者のみ)					
テキスト	30時間でマスターWord2019(実教出版)					
到達目標(行動目標)						
知識(認知領域) Wordを用いて、文字入力を行うことができる。						
技術(精神運動領域) 編集機能を活用し、表や図形を利用した一般的な文書作成ができる。						
態度(情意領域) 演習において主体的に不明点を質問・解決しながら課題を作成する。						
回数	項 目	内 容			授業 学習方法	備考
1	基礎知識	タイピング練習、Windowsの基礎知識			講義・演習	
2	Word入門①	Wordとは、文字入力、短文の入力、入力の訂正			講義・演習	
3	Word入門②	文章の入力、文章の保存・印刷、特殊な入力方法			講義・演習	
4	Word入門③	複写・削除・移動、実習問題			講義・演習	
5	Word基礎①	編集機能①②			講義・演習	
6	Word基礎②	編集機能② 表の編集 実習問題			講義・演習	
7	Word活用①	アイコン・3Dモデルの挿入、テキストボックスの挿入、ワードアート			講義・演習	
8	Word活用②	スクリーンショット、図形描画、スマートアート			講義・演習	
9	Word活用③	段組・ドロップキャップ・ページ罫線 実習問題			講義・演習	
10	Word応用①	はがき作成、差し込み印刷			講義・演習	
11	Word応用②	実習問題			講義・演習	
12	Word演習①	ビジネス文書の作成			演習	
13	Word演習②	ビジネス文書の作成			演習	
14	Word演習③	ビジネス文書の作成			演習	
15	期末試験	期末試験実施			試験	
成績評価方法						
	知識(認知領域)	技術 (精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準	
定期試験	○	○		50	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数	
小テスト						
課題レポート	○	○		25		
授業態度			○	25		
演習(GW、技術)						
担当教員	西田 直喜		実務経験紹介	無		

科目名	介護の基本Ⅱ－1			単位数	2	時間数	30
対象学生	2年	開設期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要	介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援とするためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学習ができるよう講義する。						
一般目標	1. 地域や施設・在宅の場や、介護予防や看取り、災害時等の場面や状況における、介護福祉士の役割と機能を理解する。 2. 介護を必要とする人の生活を支援するという観点から、介護サービスや地域連携など、フォーマル・インフォーマルな支援を理解する。 3. 多職種協働による介護を実践するために、保健・医療・福祉に関する他の職種の専門性や役割と機能を理解する。						
テキスト	「3 介護の基本Ⅰ」「4 介護の基本Ⅱ」 参考文献:「NHKのすこやか長寿 介護予防のいっぽう体操」(NHK出版)「大田仁史の総卒中いきいきヘルス体操」(荘道社)「図解 介護のための運動機能」(荘道社)						
到達目標(行動目標)							
知識(認知領域) 生活を支えるしくみ、自立支援、多職種連携等について説明できる。							
技術(精神運動領域) 介護における安全やチームケア等について理解し実践できる。							
態度(情意領域) 主体的に参加することができる(GWでの意見交換、課題提出等)。							
回数	項 目			内 容		授業 学習方法	備考
1	自立支援と介護予防			介護予防の意義と考え方		講義 演習	
2	自立支援と介護予防			介護予防体操とその知識の理解		講義 演習	
3	自立支援と介護予防			介護予防によるリハビリテーション		講義	
4	介護福祉士を必要とする人の生活を支えるしくみ			高齢者の生活を支えるしくみ		講義 演習	
5	介護福祉士を必要とする人の生活を支えるしくみ			高齢者の生活を支えるフォーマルサービス		講義 演習	
6	介護福祉士を必要とする人の生活を支えるしくみ			高齢者の生活を支えるインフォーマルサービス		講義 演習	
7	協働する多職種の機能と役割			協働するさまざまな職種の理解		講義 演習	
8	協働する多職種の機能と役割			協働するさまざまな職種の理解		講義 演習	
9	協働する多職種の機能と役割			介護実践における連携		講義 演習	
10	協働する多職種の機能と役割			他の職種の役割と専門性の理解(保健・医療・福祉専門職等)		講義 演習	
11	協働する多職種の機能と役割			他の職種の役割と専門性の理解(保健・医療・福祉専門職等)		講義 演習	
12	協働する多職種の機能と役割			他の職種の役割と専門性の理解(リハビリテーション専門職)		講義 演習	
13	協働する多職種の機能と役割			他の職種の役割と専門性の理解(リハビリテーション専門職)		講義 演習	
14	総まとめ			試験について説明、全体の振り返り		講義	
15	期末試験			筆記試験		試験	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			80	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト					
課題レポート	○			10	
授業態度			○	5	
演習(GW、技術等)		○		5	
担当教員	福本 智子		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	コミュニケーション技術Ⅱ			単位数	2	時間数	30
対象学生	2年	開設期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要	介護におけるコミュニケーションの意義や目的、基本視点、技法を講義する。						
一般目標	1. 介護を実践する際の基本となるコミュニケーションについての考え方や技術が理解できる。 2. 利用者の家族に関わっていく方法及びチーム力を高めるコミュニケーションの方法が理解できる。 3. 演習を通し、コミュニケーション技法を習得する。						
テキスト	「5 コミュニケーション技術」中央法規						
到達目標(行動目標)							
知識(認知領域) 介護におけるコミュニケーションの意義や技法が説明できる。							
技術(精神運動領域) 介護場面において、利用者や家族と円滑にコミュニケーションを図るための技法を習得する。 チーム力を高めるコミュニケーションの方法を習得する。							
態度(情意領域) 授業に主体的に参加することができる(GWでの積極的な討議・意見交換等)。							
回数	項 目		内 容			授業 学習方法	備考
1	対象者の特性に応じたコミュニケーション①		コミュニケーション障害への対応の基本①			講義 演習	
2	対象者の特性に応じたコミュニケーション②		コミュニケーション障害への対応の基本②			講義 演習	
3	対象者の特性に応じたコミュニケーション③		さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援①			講義 演習	
4	対象者の特性に応じたコミュニケーション④		さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援②			講義 演習	
5	対象者の特性に応じたコミュニケーション⑤		さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援③			講義 演習	
6	対象者の特性に応じたコミュニケーション⑥		さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援④			講義 演習	
7	介護におけるチームのコミュニケーション①		エコグラム、ブレインストーミング			講義 演習	
8	介護におけるチームのコミュニケーション②		集団討議			講義 演習	
9	介護におけるチームのコミュニケーション③		ブラインドワーク			講義 演習	
10	介護におけるチームのコミュニケーション④		報告・連絡・相談の技術、記録の技術			講義	
11	介護におけるチームのコミュニケーション⑤		会議・議事進行・説明の技術			講義	
12	介護におけるチームのコミュニケーション⑥		事例検討、情報の活用と管理のための技術			講義	
13	家族とのコミュニケーション		事例検討			講義 演習	
14	まとめ		振り返り、国家試験対策			講義	
15	期末試験		筆記試験			試験	

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			70	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 未修得 ()内はGP点数
小テスト					
課題レポート					
授業態度			○	10	
演習(GW、技術)		○		20	
担当教員	弘中 浩代		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	生活支援技術Ⅱ－3			単位数	2	時間数	30
対象学生	2年	開設期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要	尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。						
一般目標	1.対象者の能力を活用・発揮し、自立を支援するための生活支援の基礎的な知識・技術を習得する。 2.実践の根拠について、説明できる能力を身につける。						
テキスト	「7 生活支援技術Ⅱ」「6 生活支援技術Ⅰ」(中央法規)						
到達目標(行動目標)							
知識(認知領域) 原理原則に基づいた技術を習得したうえで、利用者の状況・状態に応じた介護技術を理解し説明ができる。							
技術(精神運動領域) 利用者個人の尊厳を維持しながら、利用者主体の生活ができる介護技術の展開ができる。 個々及び障害に応じ、潜在能力を引き出す技術が実践できる。							
態度(情意領域) 授業に積極的に参加することができる(周囲と協力する、周囲に配慮する、周囲と討議する)。							
回数	項 目			内 容		授業 学習方法	備考
1	自立に向けた身じたくの介護			点眼の介助・服薬の介助 (服薬・点眼の基本知識 準備・手順方法)		演習	
2	庵法			冷罨法・温案法の介助 (罨法意義と目的・準備・手順方法)		演習	
3	視覚障害に応じた介護			視覚障害の移動支援 (基本姿勢・歩行誘導・階段昇降手順方法)		演習	DVD 教材
4	視覚障害に応じた介護			視覚障害の移動支援 (位置交代・方向転換手順方法)		演習	DVD 教材
5	視覚障害に応じた介護			視覚障害の移動支援 (車の乗降手順方法)一連の技術練習		演習	DVD 教材
6	自立に向けた移動・移乗の介護			持ち上げない移動移乗技術 (上方移動・横移動手順方法)技術練習		演習	DVD 教材
7	自立に向けた移動・移乗の介護			持ち上げない移動移乗技術 (仰臥位/側臥位・側臥位から端座位手順方法)技術練習		演習	DVD 教材
8	自立に向けた移動・移乗の介護			持ち上げない移動移乗技術 (ベッドから車いす手順方法)技術練習		演習	DVD 教材
9	自立に向けた移動・移乗の介護			介護負担軽減重度化予防の全介助技術 (端座位から車いすへの移乗介助手順方法)技術練習		演習	DVD 教材
10	自立に向けた移動・移乗の介護			移動における多職種との連携		講義	
11	校外学習			買い物支援 (車いすを使用した購買体験)		演習	
12	技術練習①			事例を用いて技術展開(清潔保持)		演習	
13	技術練習②			事例を用いて技術展開(衣服着脱)		演習	
14	小テスト			まとめ(国家試験対策を含む)		講義	
15	期末試験			筆記試験		講義	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			70	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト	○			10	
課題レポート	○			10	
授業態度			○	5	
演習(GW、技術等)		○		5	
担当教員	山本 芳徳 松澤 可奈子□		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	生活支援技術Ⅲ－2			単位数	2	時間数	30
対象学生	2年	開設期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要	障害者支援に付いて、介護福祉士に求められる役割を理解し、専門職としての知識・技術・接遇(態度)を養う。 障害について、それぞれの障害の理解を深め自立支援の必要性と、その人らしい生活を支えるための基本的な介護技術を学ぶ。						
一般目標	1 障害があっても、なるべく自立生活が継続されるように、状況に合わせた自立支援の必要性が理解できて支援が提供できる。 2 現在の状態を把握し、なるべく自立生活が継続できるように、潜在能力を引き出していく介護支援の必要性が理解できる。 3 個別性を重視した介護の展開や他職種連携の必要性を理解して、場面場面で必要な介護技術を安全に提供できるようにする。						
テキスト	最新・介護福祉士養成講座 8 生活支援技術Ⅲ 中央法規						
到達目標							
知識(認知領域)	それぞれの障害について理解できる。 支援提供時の安全、安心、安楽の必要性が理解できて提供できる。 それぞれの障害者への自立支援の必要性、その人らしい生活を支えるための基本的な介護技術方法を説明できる。						
技術(精神運動領域)	それぞれの障害者への自立支援が提供できるように、観察力・洞察力の必要性和コミュニケーション技術を習得する。 それぞれの障害者やご家族、その他の方への説明・報告・相談ができるようなコミュニケーション技術を習得する。						
態度(情意領域)	主体的に講義・GW・演習に参加できる。 事前準備(テキストの準備・配布物の整理整頓)。						
回数	項 目			内 容		授業 学習方法	備考
1	知的障害に応じた介護			知的障害の理解と生活の理解・生活支援		講義	
2	知的障害に応じた介護			介護技術の展開、他職種の役割と協働・連携の必要性		講義	
3	知的障害に応じた介護			事例検討 社会生活上のマナーの伝え方		GW 演習	
4	精神障害に応じた介護			精神障害の理解と生活の理解・生活支援		講義	
5	精神障害に応じた介護			介護技術の展開、事例検討、他職種連携		講義 GW	
6	高次脳機能障害に応じた介護			高次脳機能障害の理解と生活の理解・生活支援 介護技術の展開、他職種連携		講義	
7	高次脳機能障害に応じた介護			事例検討 社会生活上のマナーの伝え方		GW 演習	
8	発達障害に応じた介護			発達障害の理解と生活の理解・生活支援		講義	
9	発達障害に応じた介護			介護技術の展開、他職種連携		講義	
10	発達障害に応じた介護			事例検討 社会生活上のマナーの伝え方		GW 演習	
11	筋委縮側索硬化症(ALS)に応じた介護			ALSの理解と生活の理解・生活支援 介護技術の展開、事例検討、他職種連携		講義	
12	パーキンソン病に応じた介護			パーキンソン病の理解と生活の理解・生活支援 介護技術の展開、事例検討、他職種連携		講義	
13	悪性関節リウマチに応じた介護			悪性関節リウマチの理解と生活の理解・生活支援 介護技術の展開、事例検討、他職種連携		講義	
14	筋ジストロフィーに応じた介護			筋ジストロフィーの理解と生活の理解・生活支援 介護技術の展開、事例検討、他職種連携		講義	
15	期末試験			筆記試験		試験	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			80	秀(4):90点以上
小テスト					優(3):80点以上
宿題授業外レポート					良(2):70点以上
授業態度			○	10	可(1):60点以上
発表・作品					不可(0):60点未満
演習		○		10	未修得
出席					()内はGP点数
担当教員	豊田 眞由美		実務経験紹介	無	

科目名	介護過程Ⅱ			単位数	4	時間数	60
対象学生	2年	開設期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要	実際の介護現場での事例を用いて、介護過程を展開する意義・目的が理解できるように講義する。 介護過程における介護の実施・評価についてその意義と目的が理解できるようにする。						
一般目標	1. 事例・実践を通し、アセスメントの必要性・計画の立案までの思考が理解でき提案することができる。 2. 他者の事例展開から、自己の振り返りができ計画に反映することができる。						
テキスト	「9 介護過程」 実習要項 参考文献:「事例で読み解く介護過程の展開」(中央法規)						
到達目標(行動目標)							
知識(認知領域) 他の科目で修得した知識をふまえ、実際の事例から介護過程の思考過程をふまえ展開することができる。 介護計画の実施・評価に関しての考え方が理解でき、記述することができる。							
態度(情意領域) 主体的に参加し協力できる(GWでの積極的な討議・意見交換、課題提出等)。							
回数	項 目		内 容			授業 学習方法	備考
1	アセスメントの振り返り 介護計画の立案		介護過程の思考過程(アセスメント・計画の立案)振り返り			講義	
2	介護計画の立案		事例①の生活課題から介護計画の立案			個人ワーク GW	
3	介護計画の立案		事例①の生活課題から介護計画の立案			個人ワーク GW	
4	介護の実施		実施における留意点を理解する			講義	
5	介護の実施		実施後の記録の意義と留意点を理解する			講義	
6	介護実習Ⅱ－1に向けての準備		ファイル整理 記録物の確認、ケース記録全体の留意点			講義	
7	介護実習Ⅱ－1で展開した事例の振り返り		各自が展開したケース記録を共有 気づきを各個人にフィードバック			個人ワーク GW	
8	介護実習Ⅱ－1で展開した事例の振り返り		各自が展開したケース記録を共有 気づきを各個人にフィードバック			個人ワーク GW	
9	事例検討(介護実習)①		1つ目の事例を選び、アセスメント・計画の立案までの流れ・思考過程の振り返り			個人ワーク GW	
10	事例検討(介護実習)①		アセスメント・計画の立案までの流れ・思考過程の振り返り			個人ワーク GW	
11	事例検討(介護実習)①		思考過程を整理し、具体的な考え方について共通理解			講義 GW	
12	事例検討(介護実習)①		ケース記録の見直し作成			個人ワーク GW	
13	事例検討(介護実習)①		ケース記録の見直し作成			個人ワーク GW	
14	事例検討(介護実習)②		2つ目の事例を選び、事例①の思考過程を参考に、介護過程の展開を考える			個人ワーク GW	
15	事例検討(介護実習)②		事例①の思考過程を参考に、介護過程の展開を考える			個人ワーク GW	

回数	項 目	内 容	授業 学習方法	備考
16	事例検討(介護実習)②	思考過程を整理し、具体的な考え方について共通理解	個人ワーク GW	
17	事例検討(介護実習)②	思考過程を整理し、具体的な考え方について共通理解	個人ワーク GW	
18	各自ケース記録の見直し	各自が展開したケース記録の見直し 課題の明確化	個人ワーク	
19	各自ケース記録の見直し まとめ	ケース記録の捉え方のまとめ 各自課題の明確化	講義 個人ワーク	
20	事例②の展開	事例問題から介護過程の展開	講義 個人ワーク	
21	事例②の展開	アセスメントの記入(ケース記録1の作成)	個人ワーク	
22	事例②の展開	アセスメントの記入(ケース記録1の作成)	個人ワーク	
23	事例②の展開	計画の立案(ケース記録2の作成)	個人ワーク	
24	事例②の展開	計画の立案(ケース記録2の作成)	個人ワーク	
25	評価	評価の意義と目的 個別ケアにおける評価の重要性を理解する	講義	
26	評価(事例②)	ケース記録への記入方法と考え方	講義	
27	評価(事例②)	ケース記録への記入方法と考え方	講義	
28	評価	介護過程における評価についての確認	小テスト	
29	介護実習Ⅱ-2に向けての準備 まとめ	振り返り 期末試験について	講義	
30	期末試験	筆記試験	試験	

成績評価方法

		知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験		○			90	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト						
課題レポート						
授業態度				○	5	
演習(GW、技術等)				○	5	
担当教員	有本 徹哉		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/	

科目名	介護総合演習Ⅲ			単位数	2	時間数	30
対象学生	2年	開設期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要	介護実践に必要な知識や技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う学習とする。						
一般目標	1. 対象となる人の能力を引き出し、本人主体の生活を地域で継続するための介護過程を展開できる能力を養う。 2. 介護実践における安全を管理するための基礎的な知識・技術を習得する。 3. 各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を養う。						
テキスト	「10 介護総合演習・介護実習」(中央法規) 「よくわかる介護記録の書き方」(メジカルフレンド社) 実習要項						
到達目標(行動目標)							
知識(認知領域) 介護の根拠となる知識や技術の基本について説明できる。							
技術(精神運動領域) 実習に向かうための必要な知識や技術を習得し、実施の振り返りができる。							
態度(情意領域) 授業に積極的に参加することができる。(周囲と協力する、周囲に配慮する、周囲と討議する)。							
回数	項 目		内 容			授業 学習方法	備考
1	介護実習Ⅱー1について		介護実習Ⅱの目的と主な実習内容 実習要項・緊急連絡先の確認・実習目標の設定			講義	
2	実習準備		実習の概要について 課題:実習誓約書・個人票の作成			講義	
3	実習準備		記録物の配布 実習記録の記入方法の説明・個人情報の取り扱い			講義	
4	実習準備		実習記録について			講義	
5	実習準備		介護技術の復習			演習	
6	グループミーティング		各担当教員より事前訪問、実習施設についての説明、 検便検査結果表の配布			講義	
7	実習事前訪問		実習施設に訪問し、実習準備の確認を行う 事前訪問記録の作成・報告			施設訪問 自己学習	
8							
9							
10	実習前指導・ねらい確認		結団式・伝達事項の確認・事前訪問報告			講話	
11	帰校日		実習内容等について情報交換・実習課題の確認 介護計画書の助言と作成			担当教員 助言・指導	
12							
13							
14							
15	介護実習Ⅱー1の振り返り		自己評価表・技術チェック表の記入 レポート(実習まとめ・自己課題の分析)			講義 演習	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験					秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト					
課題レポート	○			90	
授業態度	○			10	
演習(GW、技術等)					
担当教員	介護専任教員		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	障害の理解Ⅱ			単位数	2	時間数	30
対象学生	2年	開設期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要	障害のある人の身体機能や心理に関する基礎的知識を習得し、障害のある人の特性を理解できるように講義する。						
一般目標	1. 障害のある人に関する医学的・心理的な基礎知識を習得し、障害のある人の生活に応じた支援を理解する。 2. 本人のみならず、家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を修得する。						
テキスト	「14 障害の理解」(中央法規) 「ぜんぶわかる 人体解剖図」(成美堂) 「介護福祉用語辞典」(中央法規)						
到達目標(行動目標)							
知識(認知領域) 障害のある人に関する医学的・心理的な基礎知識を修得し、障害のある人の生活に応じた支援について説明できる。 本人のみならず、家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点について説明できる。							
態度(情意領域) 主体的に参加することができる。							
回数	項 目	内 容				授業 学習方法	備考
1	知的障害	知的障害とは何か(定義)、知的障害の種類、原因と特性の理解、知的障害のある人の心理的理解と生活の理解				講義	
2	知的障害	ライフステージに応じたかかわり方				講義 DVD視聴	
3	精神障害	精神障害とは何か(定義)、精神障害の種類、原因と症状の理解、精神障害のある人の心理的理解と生活の理解				講義 DVD視聴	
4	高次脳機能障害	高次脳機能障害とは何か(定義)、高次脳機能障害の原因と症状				講義 DVD視聴	
5	高次脳機能障害	高次脳機能障害の症状とその対応				講義 GW	
6	発達障害	発達障害とは何か(定義)、発達障害の種類、原因と特性の理解、発達障害のある人の心理的理解と生活の理解				講義 演習	
7	発達障害	発達障害のある人に対する支援 DVD「わたしの暮らし」見えてきたmy way				講義 DVD視聴	
8	難病	難病とは何か(定義)、難病の種類と特性の理解、難病のある人の心理的理解と生活の理解				講義	
9	重症心身障害	重症心身障害とは、重症心身障害の原因と分類、障害の特性の理解				講義	
10	連携と協働、地域におけるサポート体制	他の福祉職との連携、保健医療職種などとの連携 行政・関係機関との連携				講義	
11	チームアプローチ	チームアプローチとは、チーム作りの方法				講義	
12	家族とは	家族の定義、家族形態、家族の機能 在宅利用者の家族に起こりやすい問題				GW	
13	家族への支援	家族支援の視点、家族の介護力の評価と介護負担の軽減				講義	
14	小テスト、要点のまとめ	小テスト、国家試験も含めての要点整理				試験 講義	
15	期末試験	筆記試験				試験	

成績評価方法

		知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験		○			80	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト		○			15	
課題レポート						
授業態度				○	5	
演習(GW、技術等)						
担当教員	南田 直子		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/	

科目名	こころとからだのしくみⅣ			単位数	2	時間数	30
対象学生	2年	開設期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要	心理的側面への配慮について理解し、死に対する心が理解できるよう講義する。						
一般目標	1. 人間の欲求・人間の心のしくみを知る。 2. 死生観を明確にもち、死に行く人を受容できるような寛容、寛大な心を養う。						
テキスト	「11 こころとからだのしくみ」(中央法規)						
到達目標(行動目標)							
知識(認知領域) 人間の欲求の仕組みを説明できる。 死の受容過程を理解し説明できる。 死までの身体の変化を理解し説明できる。							
技術(精神運動領域) 死にゆく人の身体・心の変化に対応することができる。							
態度(情意領域) 主体的に講義・GWに参加できる。							
回数	項 目			内 容		授業 学習方法	備考
1	こころのしくみを理解する			「健康」の定義		講義	
2	こころのしくみを理解する			人間の欲求		講義 GW	
3	こころのしくみを理解する			自己実現と尊厳		講義 GW	
4	こころのしくみを理解する			「こころ」とは何か		講義	
5	こころのしくみを理解する			こころのしくみの基礎、適応のしくみ		講義	
6	「死」を理解する			「死」のとらえ方		講義	
7	「死」を理解する			生物学的な死、法律的な死、臨床的な死		講義 GW	
8	「死」を理解する			尊厳死、安楽死、リビングウィル		講義	
9	終末期から「死」までの変化と特徴			終末期の身体機能の特徴		講義 GW	
10	終末期から「死」までの変化と特徴			死後のからだの変化		講義	
11	「死」に対するこころの理解			「死」のとらえ方のとらえ方に対するこころの変化		講義	
12	「死」に対するこころの理解			「死」を受容する、家族の「死」を受容する		講義	
13	医療職との連携			介護職の役割と医療との連携		講義 GW	
14	エンゼルケア			終末を迎えた後のケア		講義 GW	
15	期末試験			筆記試験		試験	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○		100	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト					
課題レポート					
授業態度					
演習(GW、技術等)					
担当教員	伊東 典子		実務経験紹介	無	

科目名	医療的ケア I			単位数	4	時間数	70
対象学生	2年	開設期	通年	教員実務経験対象		有	
授業概要	医療的ケアにおける基本研修をとおして、医療チームの一員として、喀痰吸引等の医療的ケアを、安全・適切に実施できる力を養う。						
一般目標	1. 安全に喀痰吸引や経管栄養を提供する重要性やリスクマネジメントを理解する。 2. 対象にとって安全・安心なケアを提供できるよう、基礎的知識を習得する。						
テキスト	「15 医療的ケア」(中央法規) 「ぜんぶわかる 人体解剖図」(成美堂) 「介護福祉用語辞典」(中央法規)						
到達目標(行動目標)							
知識(認知領域) 安全に喀痰吸引や経管栄養を提供する重要性やリスクマネジメントを説明できる。							
技術(精神運動領域) 基礎的知識と確実な技術を修得し、安全・安心なケアを実施できる。							
態度(情意領域) 主体的に参加することができる。							
回数	項 目			内 容		授業 学習方法	備考
1	医療的ケアとは			医行為、医療の倫理、個人の尊重と自立		講義	
2	保健医療制度とチーム医療			喀痰吸引等制度、チーム医療(医療職と介護職の連携)		講義	
3	安全な療養生活			喀痰吸引等の安全な実施、ヒヤリハット・アクシデント報告		講義	
4	清潔保持と感染予防①			感染とは、標準予防策、介護職の感染予防		講義	
5	清潔保持と感染予防②			療養環境の清潔、消毒と滅菌、滅菌物の取り扱い方法		講義 演習	
6	健康状態の把握①			身体・精神の健康、バイタルサインの正確な測定方法		講義 演習	
7	健康状態の把握②			急変状態とは、急変時の対応と事前準備		講義	
8	救急蘇生①			一次救命処置、救急蘇生法の実際		講義 演習	
9	救急蘇生②			AEDを用いた心肺蘇生		講義 演習	
10	呼吸のしくみとはたらき			呼吸のしくみと主な呼吸器官の機能、換気とガス交換		講義	
11	いつもと違う呼吸状態 喀痰吸引とは			いつもと違う呼吸状態とは、喀痰吸引が必要な状態		講義	
12	人工呼吸器と吸引			人工呼吸器が必要な状態、人工呼吸器のしくみ 非侵襲的・侵襲的人工呼吸療法の留意点、医療職との連携		講義	
13	子どもの吸引、説明と同意			子どもの吸引の留意点、吸引の実施に関する説明と同意		講義	
14	呼吸器系の感染と予防 喀痰吸引により生じる危険 急変・事故発生時の対応と事前対策			呼吸器感染の可能性を示す状態、呼吸器感染の原因と予防吸引時に想定されるトラブルとその対応 緊急を要する状態、急変・事故発生時の対応と事前対策		講義	
15	喀痰吸引に伴うケア			痰を出しやすくするケア、体位を整えるケア、口腔内ケア		講義	
16	中間確認問題			1回目～15回目のまとめ・確認テスト		試験 講義	
17	高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順 解説(口腔内・鼻腔内吸引)			喀痰吸引で用いる器具・器材とそのしくみ 吸引の技術と留意点 ①吸引前の準備・観察 ②吸引実施手順と留意点 ③吸引中の観察 ④吸引後の報告、片付け、記録		講義 演習	
18							
19							
20	高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順 解説(気管内吸引)			喀痰吸引で用いる器具・器材とそのしくみ 吸引の技術と留意点 ①吸引前の準備・観察 ②吸引実施手順と留意点 ③吸引中の観察 ④吸引後の報告、片付け、記録		講義 演習	
21							
22							

回数	項 目	内 容	授業 学習方法	備考
23	消化器系のしくみとはたらき	消化器系器官のしくみと機能	講義	
24	消化・吸収と消化器系の症状	消化・吸収について、よくある消化器の症状	講義	
25	経管栄養とは	経管栄養が必要な状態、経管栄養のしくみと種類	講義	
26	注入する内容に関する知識 経管栄養実施上の留意点	経管栄養で注入する栄養剤について 経管栄養で起こり得る身体の異常	講義	
27	子どもの経管栄養、経管栄養に 関係する感染と予防	経管栄養を必要とする子どもとは 子どもの経管栄養の留意点、経管栄養による感染と予防	講義	
28	経管栄養を受ける利用者や家族 の気持ちと対応、説明と同意	経管栄養の感染予防策、利用者と家族の気持ちに沿った 対応と留意点、経管栄養の実施に関する説明と同意	講義	
29	経管栄養により生じる危険 急変・事故発生時の対応と事前対策	経管栄養に想定されるトラブルと対応、注入後の安全確認 緊急を要する状態、急変時の対応、医療職との連携体制	講義	
30	経管栄養に必要なケア	消化機能を促進するケア、体位を整えるケア、口腔内や鼻のケア、胃ろう部のケア	演習	
31	高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説(経鼻経管栄養)	経管栄養で用いる器具・器材とそのしくみ 経管栄養の技術と留意点 ①必要物品の準備と留意点 ②経鼻経管栄養実施手順と留意点 ③実施後の報告、片付け、記録	講義・演習	
32				
33	高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説(胃ろうまたは腸ろう栄養)	経管栄養で用いる器具・器材とそのしくみ 経管栄養の技術と留意点 ①必要物品の準備と留意点 ②胃ろう経管栄養実施手順と留意点 ③実施後の報告、片付け、記録	講義・演習	
34				
35				

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			80	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト					
課題レポート					
授業態度			○	10	
演習(GW、技術等)	○			10	
担当教員	水本 博子 豊田 真由美		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	医療的ケアⅡ			単位数	2	時間数	30
対象学生	2年	開設期	通年	教員実務経験対象	有		
授業概要	医療的ケアにおける基本研修をとおして、医療チームの一員として、喀痰吸引等の医療的ケアを、安全・適切に実施できる力を養う。						
一般目標	1. 対象にとって安全・安心なケアを提供できるよう、確実な技術を習得する。						
テキスト	「15 医療的ケア」(中央法規) 「ぜんぶわかる 人体解剖図」(成美堂) 「介護福祉用語辞典」(中央法規)						
到達目標(行動目標)							
知識(認知領域) 安全に喀痰吸引や経管栄養を提供する重要性やリスクマネジメントを説明できる。							
技術(精神運動領域) 痰の吸引・経管栄養をシュミレーターを用いて一連の動作を一人で実施できる。							
態度(情意領域) 主体的に参加することができる。							
回数	項 目		内 容			授業 学習方法	備考
1	小テスト、喀痰吸引の演習		手順書の確認、口腔内・鼻腔内吸引の演習			演習	
2	喀痰吸引の演習		実技確認試験			演習	
3	喀痰吸引の演習		実技確認試験			演習	
4	喀痰吸引の演習		実技確認試験			演習	
5	小テスト、喀痰吸引の演習		手順書の確認、気管カニューレ内部吸引の演習			演習	
6	喀痰吸引の演習		実技確認試験			演習	
7	喀痰吸引の演習		実技確認試験			演習	
8	喀痰吸引の演習		実技確認試験			演習	
9	小テスト、経管栄養の演習		手順書の確認、経鼻経管栄養の演習			演習	
10	経管栄養の演習		実技確認試験			演習	
11	経管栄養の演習		実技確認試験			演習	
12	経管栄養の演習		実技確認試験			演習	
13	小テスト、経管栄養の演習		手順書の確認、胃ろう経管栄養の演習			演習	
14	経管栄養の演習		実技確認試験			演習	
15	経管栄養の演習		実技確認試験			演習	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験					秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト	○			20	
課題レポート	○			30	
授業態度			○	10	
演習(GW、技術等)	○			40	
担当教員	水本 博子 豊田 眞由美		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	就職実務Ⅱ			単位数		時間数	22
対象学生	2年	開設期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要	進路希望先を明確にするとともに、就職活動の流れに沿って対策を行い、準備を整える。 採用内定後の心構えについて説明する。						
一般目標	1. 自己理解・職業理解についての理解を深め、自己PRする力を身につける。 2. 求職票を作成し、履歴書の書き方を学習する。 3. 就職活動の準備をする。						
テキスト	「キャリアプランからはじめる就職活動 実践！ワークブック」(PHP研究所)						
到達目標(行動目標)							
知識(認知領域)							
技術(精神運動領域)							
態度(情意領域)							
回数	項 目		内 容			授業 学習方法	備考
1	就職活動に向けて		情報収集の仕方と求人内容の理解、求職表の作成 応募先選定の意思決定に向けて準備			講義	
2	自己PRの作成		自己PRのポイント履歴書の見直し・修正			講義	
3	自己PRの作成 添え状・お礼状について		自己PR・履歴書個別添削 添え状の作成・お礼状の作成説明			講義	
4	志望動機の作成		志望動機ポイントの理解し、文章にまとめる			講義	
5	志望動機の作成		志望動機の作成・添削			講義	
6	就職活動について		卒業生から在校生へ就職のアドバイス			講義	
7	面接対策		面接の流れ、動作確認と質問への対応			演習	
8	面接練習		グループに分かれ、面接練習の実施 (自己紹介・自己PR・面接の実施)			講義	
9	面接練習		合同面接練習(グループに分かれて実施練習)			演習	
10	面接練習		合同面接練習(グループに分かれて実施練習)			演習	
11	就職準備		合同面接練習の振り返り・就職への心構え			講義	
12							
13							
14							
15							

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験					秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト					
宿題授業外レポート					
授業態度					
発表・作品					
演習					
出席					
担当教員	介護専任教員・YIC本部教員		実務経験紹介	有	

科目名	チームマネジメント			単位数	2	時間数	30
対象学生	2年	開設期	後期	教員実務経験対象	有		
授業概要	「人間の尊厳と自立」、「人間関係とコミュニケーション」で習得した介護福祉士の倫理基盤、コミュニケーションの基盤に基づき、求められているチームで働く能力の基礎、チームマネジメントが習得できるよう講義する。						
一般目標	介護の質を高めるために必要な、チームマネジメントの基礎的な知識を理解し、チームで働くための能力を習得する。						
テキスト	「1 人間の理解」(中央法規)						
到達目標(行動目標)							
知識(認知領域) チームで働く力を養うための、コミュニケーションやチームマネジメントの基礎的な知識が説明できる。							
技術(精神運動領域) グループワーク(演習)学習で、チームの力を最大限に発揮するためのコミュニケーション技法を実施できる。							
態度(情意領域) 主体的にGWに参加し、自分の価値観や行動をふりかえることができる。							
回数	項 目			内 容		授業 学習方法	備考
1	組織におけるコミュニケーション			組織において求められるコミュニケーション		講義 演習	
2	介護実践におけるコミュニケーション①			介護現場で求められるチームマネジメント		講義 演習	
3	介護実践におけるコミュニケーション②			情報共有と合意形成(演習)実習日程の調整		講義 演習	
4	ケアを展開するためのチームマネジメント①			リーダーシップ		講義 演習	
5	ケアを展開するためのチームマネジメント②			フォロワーシップ		講義 演習	
6	ケアを展開するためのチームマネジメント③			(演習)紙コップオブジェ		講義 演習	
7	人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント			人材育成・開発のしくみ(OJT,Off-JT)、スーパービジョン		講義 演習	
8	組織の目標達成のためのチームマネジメント			介護サービスを支える組織の理解		講義 演習	
9	まとめ			セルフエスティーム(演習)ポジティブフィードバック		講義 演習	
10	期末試験			筆記試験		試験	
11	特別講義			これからの介護現場に求められているものを中心に、実際の介護現場にいる様々な立場の方からの講義		講義	
12	特別講義					講義	
13	特別講義					講義	
14	特別講義					講義	
15	特別講義					講義	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			70	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト					
課題レポート					
授業態度			○	10	
演習(GW、技術等)		○		20	
担当教員	弘中 浩代		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	介護の基本Ⅱ－2			単位数	2	時間数	30
対象学生	2年	開設期	後期	教員実務経験対象	有		
授業概要	介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援とするためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学習ができるよう講義する。						
一般目標	1. 介護福祉の専門性と倫理を理解し、介護福祉士に求められる専門職としての態度を形成する。 2. 介護におけるリスクマネジメントの必要性を理解するとともに、安全の確保のための基礎的な知識や事故への対応を理解する。 3. 介護従事者自身が心身ともに健康に、介護を実践するための健康管理や労働環境の管理について理解する。						
テキスト	「3 介護の基本Ⅰ」「4 介護の基本Ⅱ」 参考文献:「図解 介護のための運動機能」（荘道社）						
到達目標(行動目標)							
知識(認知領域) 介護実践における安全とリスクマネジメン、職業倫理等について説明できる。							
技術(精神運動領域) 介護における安全やチームケア等について理解し実践できる。							
態度(情意領域) 主体的に参加することができる(GWでの意見交換、課題提出等)。							
回数	項 目			内 容		授業 学習方法	備考
1	地域連携			地域連携の意義と目的		講義 演習	
2	地域連携			地域連携における介護施設の役割		講義 演習	
3	地域連携			地域連携における介護施設の役割		講義 演習	
4	地域連携			地域連携にかかわる機関の理解		講義 演習	
5	地域連携			利用者を取り巻く地域連携の実際		講義 演習	
6	介護における安全の確保とリスクマネジメント			リスクマネジメントとは何か		講義 演習	
7	介護における安全の確保とリスクマネジメント			事故防止のための対策(ヒヤリハット・事故報告書等)		講義 演習	
8	介護における安全の確保とリスクマネジメント			事故防止のための対策(危険予知と危険回避等)		講義 演習	
9	介護従事者の安全			健康管理の意義と目的		講義 演習	
10	介護従事者の安全			こころの健康管理		講義 演習	
11	介護従事者の安全			こころの病気		講義 演習	
12	介護従事者の安全			身体の健康管理 介護予防に役立つ体操とその知識		講義 演習	
13	介護福祉士の倫理			事例で学ぶ介護の専門性と職業倫理		講義 演習	
14	総まとめ			試験についての説明		講義	
15	期末試験			筆記試験		試験	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			80	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト					
課題レポート	○			10	
授業態度			○	5	
演習(GW、技術等)		○		5	
担当教員	福本 智子		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	生活支援技術Ⅱ－4			単位数	2	時間数	30
対象学生	2年	開設期	後期	教員実務経験対象	有		
授業概要	尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。						
一般目標	1.対象者の能力を活用・発揮し、自立を支援するための生活支援の基礎的な知識・技術を習得する。 2.実践の根拠について、説明できる能力を身につける。						
テキスト	「7 生活支援技術Ⅱ」「6 生活支援技術Ⅰ」(中央法規)						
到達目標(行動目標)							
知識(認知領域) 原理原則に基づいた技術を習得したうえで、利用者の状況・状態に応じた介護技術について説明ができる。							
技術(精神運動領域) 利用者個人の尊厳を維持しながら、利用者主体の生活ができる介護技術の展開ができる。 個々及び障害に応じ、対象者の能力を活用・発揮した技術の実践ができる。							
態度(情意領域) 授業に積極的に参加することができる(周囲と協力する、周囲に配慮する、周囲と討議する)。							
回数	項 目			内 容		授業 学習方法	備考
1	事例1			事例概要の説明・レポート作成 グループワーク (事例展開)		演習	
2	事例1			グループワーク発表 ポイント説明と事例のまとめ(実演) 事例2概要説明		演習	
3	事例2			事例概要の説明・レポート作成 グループワーク (事例展開)		演習	
4	事例2			グループワーク発表 ポイント説明と事例のまとめ(実演) 事例3概要説明		演習	
5	事例3			事例概要の説明・レポート作成 グループワーク (事例展開)		演習	
6	事例3			グループワーク発表 ポイント説明と事例のまとめ(実演) 事例4概要説明		演習	
7	模擬技術試験			事例1・2・3について模擬技術試験		演習	
8	模擬技術試験			事例1・2・3について模擬技術試験		演習	
9	振り返り			模擬技術試験の振り返り		演習	
10	事例4			事例概要の説明・レポート作成 グループワーク (事例展開)		演習	
11	事例4			グループワーク発表 ポイント説明と事例のまとめ(実演) 事例5概要		演習	
12	事例5			事例概要の説明・レポート作成 グループワーク (事例展開)		演習	
13	事例5			グループワーク発表 ポイント説明と事例のまとめ(実演)		演習	
14	まとめ			事例1～5のまとめと技術練習		演習	
15	期末試験			筆記試験・技術練習		試験	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験(筆記)	○			50	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト					
課題レポート	○			10	
授業態度					
技術試験		○	○	40	
担当教員	山本 芳徳□		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	介護過程Ⅲ			単位数	2	時間数	30
対象学生	2年	開設期	後期	教員実務経験対象	有		
授業概要	実際の介護現場での事例を用いて、ケアカンファレンスの意義・目的を理解し介護過程の多様性が理解できるように講義する。介護過程とケアマネジメントの関係性やチームアプローチにおける介護福祉士の役割がイメージできるようにする。						
一般目標	1. 他の学生の事例展開やケアカンファレンスの中から幅広い視点を学び具現化することできる。 2. 介護過程におけるケアマネジメントやチームアプローチについて理解できる。 3. 事例研究の基礎的知識及び実際の介護現場における事例研究の取り組みについて知ることができる。						
テキスト	「9 介護過程」 実習要項 参考文献：「事例で読み解く介護過程の展開」(中央法規)						
到達目標(行動目標)							
知識(認知領域) 介護過程とケアマネジメントの関係性や、チームアプローチにおける介護福祉士の役割が説明できる。							
態度(情意領域) 主体的に参加し協力できる(GWでの積極的な討議・意見交換、課題提出等)。							
回数	項 目		内 容			授業 学習方法	備考
1	事例検討会準備		事例検討会の意義・目的 グループ分けをし事例提供者の選定・ケアカンファレンス			講義 GW	
2	事例検討会準備		ケース記録の見直し			GW 個人ワーク	
3	事例検討会準備		新たな課題や方向性の模索 思考過程の整理			GW 個人ワーク	
4	事例検討会準備		パワーポイントでの資料作り			GW 個人ワーク	
5	事例検討会準備		パワーポイントでの資料作り			GW 個人ワーク	
6	事例検討会準備		パワーポイントでの資料作り			GW 個人ワーク	
7	事例検討会準備		発表会準備			GW 個人ワーク	
8	事例検討会		ケース記録とパワーポイント資料で事例発表 (1グループ20分)			発表会	
9	事例検討会(1年生と合同授業)		ケース記録とパワーポイント資料で事例発表 (1グループ20分)			発表会	
10	介護過程とケアマネジメント		介護過程とケアマネジメントの関係性 チームアプローチにおける介護福祉士の役割			講義	
11	期末試験		筆記試験 振り返り・国家試験対策			試験	
12	事例研究		職能団体職員による事例研究の意義と目的 研究方法の理解（質的研究・量的研究・事例研究など）			講義 GW	国家試験終了後 に受講
13	事例研究						
14	事例研究		事例研究の実際			講義 GW	
15	事例研究		事例研究検討会			講義 GW	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			80	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト					
課題レポート					
授業態度					
演習(GW、技術等)	○		○	20	
担当教員	有本 徹哉		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	介護総合演習Ⅳ			単位数	2	時間数	30
対象学生	2年	開設期	後期	教員実務経験対象	有		
授業概要	介護実践に必要な知識や技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う学習とする。						
一般目標	1. 対象となる人の能力を引き出し、本人主体の生活を地域で継続するための介護過程を展開できる能力を養う。 2. 介護実践における安全を管理するための基礎的な知識・技術を習得する。 3. 各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を養う。						
テキスト	「10 介護総合演習・介護実習」(中央法規) 「よくわかる介護記録の書き方」(メジカルフレンド社) 実習要項						
到達目標(行動目標)							
知識(認知領域) 介護の根拠となる知識や技術の基本について説明できる。							
技術(精神運動領域) 実習に向かうための必要な知識や技術を習得し、実施の振り返りができる。							
態度(情意領域) 授業に積極的に参加することができる(周囲と協力する、周囲に配慮する、周囲と討議する)。							
回数	項 目		内 容			授業 学習方法	備考
1	介護実習Ⅱー2について		介護実習Ⅱの目的と実習内容の理解 実習要項・緊急連絡先の確認・実習目標の設定			講義	
2	実習準備		実習要項について 課題:実習誓約書・個人票の作成			講義 演習	
3	実習準備		記録物の配布 実習記録の記入方法の説明・個人情報の取り扱い			講義	
4	実習準備		介護技術の復習			演習	
5	グループミーティング		各担当教員より事前訪問、実習についての説明			講義	
6	実習事前訪問		実習施設に訪問し、実習準備の確認を行う 事前訪問記録の作成・報告 技術練習			施設訪問 自己学習	
7							
8							
9	実習前指導・ねらいの確認		結団式・伝達事項の確認・事前訪問報告			講話	
10	帰校日		実習内容等について情報交換・実習課題の確認 介護計画書の助言と作成			担当教員 助言・指導	
11							
12							
13							
14	介護実習Ⅱー2の振り返り		自己評価表・技術チェック表の記入 レポート(実習まとめ・自己課題の分析)			講義 演習	
15	介護総合演習における介護観の形成		自己の介護観について レポート作成			講義	

成績評価方法

		知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験		○			100	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト						
課題レポート						
授業態度						
演習(GW、技術等)						
担当教員	介護専任教員		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/	